327.2
N684s

0017266000

0017266-000

327. 2-N684s

新民事訴訟法

双美書房

1948

ACH

327.2
N684s

新民事訟訴法

双美書房

日本出版
販売株式
23.12.1
文所

新民事訴訟法

双美書房版

新民事訴訟法

裁判所法及び民法の一部を改正する法律の施行等に伴い、簡易裁判所の審理及び裁判手續を定める等のため、こゝに民事訴訟法の一部を改正する法律の發令を見た。

本法は昭和二十三年五月「民事訴訟法の一部を改正する法律案」として內閣より國會に提出せられ同年六月參議院の一部修正によつて成立、同年七月　日法律第　號を以て公布（昭和二十四年一月一日より實施）せられた。

本書冊は民事訴訟法全文中右の改正部分を大字体として收錄し大方の參考に供した。

327.2
N684s

國會圖書館
41.8.9
圖書館藏書

702123

民事訴訟法

（明治二十三年四月二十一日法律第二十九號）

改正　大正一五年第六一號、昭和六年第一七號、昭和一〇年第一五號、昭和一三年第一九號、昭和一六年第五七號　昭和二三年第　號

朕民事訴訟法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

民事訴訟法中改正法律（大正十五年四月二十四日法律第六十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

民事訴訟法中左ノ通改正ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年勅令第百五號ヲ以テ昭和四年十月一日ヨリ施行）

民事訴訟法の一部を改正する法律

民事訴訟法

第一編　總則……二
第一章　裁判所……二
第一節　管轄……二
第二節　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避……四
第二章　當事者……五
第一節　當事者能力及訴訟能力……五
第二節　共同訴訟……七
第三節　訴訟參加……八
第四節　訴訟代理人及輔佐人……九
第三章　訴訟費用……九
第一節　訴訟費用ノ負擔……九
第二節　訴訟費用ノ擔保……一一
第三節　訴訟上ノ救助……一二
第四章　訴訟手續……一二
第一節　口頭弁論……一二
第二節　期日及期間……一五
第三節　送達……一六
第四節　裁判……一七
第五節　訴訟手續ノ中斷及中止……二〇
第二編　第一審ノ訴訟手續……二一
第一章　訴……二一
第二章　弁論及其ノ準備……二一
第三章　證據……二四
第一節　証人……二四
第二節　證人訊問……二五
第三節　鑑定……二八
第四節　書證……二八
第五節　檢證……三〇
第六節　當事者訊問……三〇
第七節　證據保全……三一
第四章　簡易裁判所ノ訴訟手續ニ關スル特則……三一
第三編　上訴……三三
第一章　控訴……三三
第二章　上告……三五
第三章　抗告……三七
第四編　再審……三八
第五編　督促手續……四〇
第六編　强制執行……四一
第一章　總則……四一
第二章　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行……四八
第一節　動產ニ對スル强制執行……四八
第一款　通則……四八
第二款　有體動產ニ對スル强制執行……四八
第三款　債權及ヒ他ノ財產權ニ對スル强制執行……五一
第四款　配當手續……五五

[illegible]

[illegible]

第二十七條　第一條、第五條乃至第二十一條、第二十五條及前條ノ規定ハ訴ニ付專屬管轄ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十八條　裁判所ハ管轄ニ關スル事項ニ付職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　裁判所ノ管轄ハ起訴ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第三十條　裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一部カ其ノ管轄ニ屬セスト認ムルトキハ決定ヲ以テ之ヲ管轄裁判所ニ移送ス

地方裁判所ハ訴訟カ其ノ管轄區域內ノ簡易裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ相當ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ニ付自ラ審理及裁判ヲ爲スコトヲ得但シ訴ニ付專屬管轄ノ定ノアル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付著キ損害又ハ遲滯ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ專屬管轄ニ屬スルモノヲ除クノ外申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ他ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得

第三十一條ノ二　簡易裁判所ハ訴訟カ其ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ相當ト認ムルトキハ其ノ專屬管轄ニ屬スルモノヲ除クノ外申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ移送スルコトヲ得

第三十二條　移送ノ裁判ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束ス移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ事件ヲ他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ得ス

第三十三條　移送ノ裁判及移送ノ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　移送ノ裁判確定シタルトキハ訴訟ハ初ヨリ移送ヲ受ケタル裁判所ニ繫屬シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ移送ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ書記ハ其ノ裁判ノ正本ヲ訴訟記錄ニ添附シ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第三節　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第三十五條　裁判事ハ左ノ場合ニ於テハ法律上其ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラル

一　裁判官又ハ其ノ配偶者若ハ嘗テリシ者カ事件ノ當事者ナルトキ又ハ事件ニ付當事者ト共同權利者、共同義務者若ハ償還義務者タル關係ヲ有スルトキ

二　裁判官カ當事者ノ四親等內ノ血族、三親等內ノ姻族若ハ同居ノ親族ナルトキ又ハナリシトキ

三　裁判官カ當事者ノ後見人、後見監督人、又ハ保佐人ナルトキ

四　裁判官カ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五　裁判官カ事件ニ付當事者ノ代理人又ハ輔佐人ナルトキ又ハナリシトキ

六　裁判官カ事件ニ付仲裁判斷ニ關與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル前審ノ裁判ニ關與シタルトキ但シ他ノ裁判所ノ囑託ニ因リ受託裁判官トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十六條　除斥ノ原因アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲ス

第三十七條　裁判官ニ付裁判ノ公正ヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

當事者カ裁判官ノ面前ニ於テ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申立ヲ爲シタルトキハ其ノ裁判官ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原因カ其ノ後ニ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　第三十六條又ハ前條ニ規定スル申立ハ其ノ原因ヲ開示シテ裁判官所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス除斥又ハ忌避ノ原因ヲ主張シタル日ヨリ三日內ニ之ヲ疏明スルコトヲ要ス前條第二項但書ノ事實亦同シ

第三十九條　合議體ノ構成員タル裁判官及地方裁判所ノ一人ノ裁判官ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判官所屬ノ裁判所カ、簡易裁判所ノ裁判官ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其ノ裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所カ決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

前項ノ裁判ハ地方裁判所ニ於テハ合議體ニ於テ之ヲ爲ス

第四十條　裁判官ハ其ノ除斥又ハ忌避ニ付裁判ニ關與スルコトヲ得ス但シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十一條　除斥又ハ忌避ヲ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ其ノ申立ニ付テノ裁判ノ確定ニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スルコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　第三十五條及第三十七條第一項ノ場合ニ於テハ裁判官ハ監督權アル裁判所ノ許可ヲ得テ回避スルコトヲ得

第四十四條　本節ノ規定ハ裁判所書記ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲シ簡易裁判所ノ書記ノ回避ノ許可ハ其ノ裁判所ノ裁判所法第三十七條ニ規定スル裁判官之ヲ爲ス

第二章　當事者

第一節　當事者能力及訴訟能力

第四十五條　當事者能力、訴訟能力及訴訟無能力者ノ法定代理ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法其ノ他ノ法令ニ從フ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權亦同シ

第四十六條　法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管

理人ノ定アルモノハ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得

第四十七條　共同ノ利益ヲ有スル多數者ニシテ前條ノ規定ニ該當セサルモノハ其ノ中ヨリ總員ノ爲ニ原告若ハ被告ト爲ルヘキ一人若ハ數人ヲ選定シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得

訴訟ノ當屬ノ後前項ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ定メタルトキハ他ノ當事者ハ當然訴訟ヨリ脫退ス

第四十八條　前條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者中死亡其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ他ノ當事者ニ於テ總員ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十九條　未成年者及禁治產者ハ法定代理人ニ依リテノミ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ未成年者カ獨立シテ法律行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　準禁治產者、　又ハ法定代理人カ相手方ノ提起シタル訴又ハ其ノ訴ニ付訴訟行爲ヲ爲スニハ保佐人又ハ後見監督人ノ同意其ノ他ノ授權ヲ要セス

準禁治產者、　又ハ法定代理人カ訴、其訴若ハ上告ノ取下、和解、請求ノ棄却若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル訴訟ヲ爲スニハ常ニ特別ノ授權アルコトヲ要ス

第五十一條　外國人ハ其ノ本國法ニ依レハ訴訟能力ヲ有セサルトキハ日本ノ法律ニ依レハ訴訟能力ヲ有スヘキトキハ之ヲ訴訟能力者ト看做ス

第五十二條　法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ權限ハ當事者ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定及變更亦同シ

前項ノ權限ハ訴訟記錄ニ之ヲ編附スルコトヲ要ス

第五十三條　訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メテ其ノ補正ヲ命シ若期間内ノ爲損害ヲ生スル虞アルトキハ一時訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十四條　訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アル者カ爲シタル訴訟行爲ハ其ノ欠缺ナキニ至リタル當事者又ハ法定代理人ノ追認ニ因リ行爲ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條　第五十三條及前條ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者カ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　法定代理人ナキ場合又ハ法定代理人カ代理權ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ未成年者又ハ禁治產者ニ對シ訴訟行爲ヲ爲サムトスル者ハ遲滯ノ爲損害ヲ受クル虞アルコトヲ疏明シテ受訴裁判所ノ裁判長ニ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ特別代理人ヲ改任スルコトヲ得

特別代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニハ後見人ト同一ノ授權アルコトヲ要ス

特別代理人ノ選任及改任ノ命令ハ特別代理人ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第五十七條　法定代理權ノ消滅ハ本人又ハ代理人ニ取リ之ヲ相手方ニ通知スルニ非サレハ其ノ效ナシ

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定ニ之ヲ準用ス

第五十八條　本節中法定代理及法定代理人ニ關スル規定ハ法

人ノ代表者及法人ニ準スヘキ其ノ名ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ代表者又ハ管理人ニ之ヲ準用ス

第二節　共同訴訟

第五十九條　訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ數人ニ付共通ナルトキ又ハ同一ノ事實上及法律上ノ原因ニ基クトキハ其ノ數人ハ共同訴訟人トシテ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得訴訟ノ目的タル權利又ハ義務カ同種ニシテ事實上及法律上同種ノ原因ニ基クトキ亦同シ

第六十條　他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲ニ請求スル者ハ其ノ訴訟ノ繫屬中當事者雙方ヲ共同被告トシテ一時ノ受訴裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條　共同訴訟人ノ一人ノ訴訟行爲又ハ之ニ對スル相手方ノ訴訟行爲及其ノ一人ニ付生シタル事項ハ他ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ホサス

第六十二條　訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ一人ノ訴訟行爲ハ全員ノ利益ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ對スル相手方ノ訴訟行爲ハ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス

共同訴訟人ノ一人ニ付訴訟手續ノ中斷又ハ中止ノ原因アルトキハ其ノ中斷又ハ中止ハ全員ニ付其ノ效力ヲ生ス

第六十三條　第五十條第一項ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ於テ共同訴訟人ノ一人カ提起シタル上訴ニ付他ノ共同訴訟人ノ爲スヘキ訴訟行爲カ被參加人ノ訴訟行爲ニ之ヲ準用ス

第三節　訴訟參加

第六十四條　訴訟ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル第三者ハ其ノ訴訟ノ當屬中當事者ノ一方ヲ補助スル爲訴訟ニ參加スルコトヲ得、

第六十五條　參加ノ申出ハ參加ノ趣旨及理由ヲ具シ參加ニ依リテ訴訟行爲ヲ爲スヘキ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ニ依リテ參加ノ申出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ當事者ハ之ヲ當事者雙方ニ通知スルコトヲ要ス

參加ノ申出ハ參加人トシテ爲シタル訴訟行爲ト共ニ之ヲ爲スコトヲ得

第六十六條　當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘタルトキハ參加ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ參加ノ許否ニ付決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘスシテ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ異議ヲ述フル權利ヲ失フ

第六十八條　參加人ハ參加ニ付異議アル場合ニ於テモ參加ヲ許サヽル裁判確定セサル間ハ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

參加人ノ訴訟行爲ハ當事者カ之ヲ援用シタルトキハ參加ヲ許サヽル裁判確定シタル場合ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第六十九條　參加人ハ訴訟ニ付攻擊又ハ防禦ノ方法ノ提出、異議ノ申立、上訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ程度ニ從ヒ爲スコトヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

參加人ノ訴訟行爲カ被參加人ノ訴訟行爲ト抵觸スルトキハ其ノ效力ヲ有セス

第七十條　前條ノ規定ニ依リテ參加人カ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ス又ハ其ノ訴訟行爲カ效力ヲ有セサリシ場合ハ被參加

人カ参加人ノ訴訟行爲ヲ妨ケタル場合及被参加人カ参加人ソ爲スコト能ハサル訴訟行爲ヲ故意又ハ過失ニ因リテ爲ササリシ場合ヲ除クノ外裁判ハ参加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十一條　訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルヘキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的ノ全部若ハ一部カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ訴訟ニ参加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十二條及第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條　前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲訴訟ニ参加シタル者アル場合ニ於テハ参加前ノ原告又ハ被告ハ相手方ノ承諾ヲ得テ訴訟ヨリ脱退スルコトヲ得但シ判決ハ脱退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十三條　訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ譲受ケタルコトヲ主張シ第七十一條ノ規定ニ依リテ訴訟参加ヲ爲シタルトキハ其ノ参加ハ訴訟ノ繫屬ノ初ニ遡リテ時效ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ノ效力ヲ生ス

第七十四條　訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承認シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

第七十二條ノ規定中忌避及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ訴訟ニ参加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條　當事者ハ訴訟ノ繫屬中参加ヲ爲スコトヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ノ告知ヲ爲スコトヲ得

訴訟告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟告知ヲ爲スコトヲ得

第七十七條　訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ書面ハ相手方ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第七十八條　訴訟告知ヲ受ケタル者カ参加セサリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ノ適用ニ付テハ参加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ参加シタルモノト看做ス

第四節　訴訟代理人及輔佐人

第七十九條　法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得ス但シ簡易裁判所ニ於テハ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第八十條　訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

前項ノ書面カ私文書ナルトキハ裁判所ハ當該吏員ノ認證ヲ受クヘキ旨ヲ訴訟代理人ニ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ當事者カ口頭ヲ以テ訴訟代理人ヲ選任シ裁判所書記カ調書ニ其ノ陳述ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第八十一條　訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、参加、强制執行、假差押及假處分ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ且

特別ノ授權ヲ受領スルコトヲ得

左ニ掲クル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ要ス

一　反訴ノ提起

二　訴ノ取下、和解、請求ノ抛棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル訴退

三　控訴、上告又ハ其ノ取下

四　代理人ノ選任

訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ス但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケス

第八十三條　數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス

當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ生セス

第八十四條　訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生セス

第八十五條　訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因ル消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ決定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セス

第八十六條　一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セス

前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者カ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條　第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

第八十八條　當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人カ直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三章　訴訟費用

第一節　訴訟費用ノ負擔

第八十九條　訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

第九十條　裁判所ハ事情ニ從ヒ勝訴ノ當事者ヲシテ其ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナラサル行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用又ハ訴訟ノ程度ニ於テ相手方ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナリシ行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十一條　當事者カ遲延ノ時期ニ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出セサル爲又ハ期日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ訴訟ヲ遲滯セシメタルトキハ裁判所ハ之ヲシテ其ノ勝訴ノ場合ニ於テモ遲滯ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十二條　一部敗訴ノ場合ニ於テハ當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十三條　共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ裁判所ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス權利ノ伸張又ハ防禦ニ必要ナリトスルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ訴訟費用ノ負擔ヲ命スルコトヲ得

第九十四條　裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム

訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本並費用額ノ疎明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十五條　裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書及其ノ謄本ヲ送付シ期間ヲ指定シテ其ノ異議ヲ申立ツルヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十六條　裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書ノ謄本ヲ交付シ期間ヲ指定シ異議ヲ申立ツルヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十七條　裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス場合ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定ヲ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

第九十八條　法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執行吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生セシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ他等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル權限アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十九條　裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

第百條　裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム

訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本並費用額ノ疎明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百一條　裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書ノ謄本ヲ交付シ期間ヲ指定シ異議ヲ申立ツルヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百一條　裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス場合ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定ヲ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

第九十八條　法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執行吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生セシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ他等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル權限アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

第九十九條　裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

第百條　裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム

訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本並費用額ノ疎明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第九十七條　裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス場合ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定ヲ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

第九十八條　法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執行吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生セシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ他等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル權限アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

第百條　前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟カ裁判ニ因ラスシテ終結シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ訴訟費用ノ額ヲ定メ且其ノ負擔ヲ命スルコトヲ要ス參加又ハ之ニ替テノ異議ノ取下アリタルトキ亦同シ

第八十九條乃至第九十四條、第百條第二項第三項、第百一條及第百二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百五條　裁判所ハ裁判所書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六條　費用ヲ要スル行爲ニ付テハ裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

當事者カ裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ前項ノ行爲ヲ爲ササルコトヲ得

第二節　訴訟費用ノ擔保

第百七條　原告カ日本ニ住所、事務所及營業所ヲ有セサルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ訴訟費用ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ原告ニ命スルコトヲ要ス擔保ニ不足ヲ生シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付爭ナキ場合ニ於テ其ノ額カ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適用セス

第百八條　擔保ヲ供スヘキ事由アルコトヲ知リタル後遲滯ナク其事由カ本案ニ付終局ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第百九條　擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告カ擔保ヲ供スル迄訴訟ニ應スルコトヲ得

第百十條　裁判所ハ擔保ヲ供スヘキコトヲ命スル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

擔保額ハ被告カ行使ニ於テ支出スヘキ費用ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第百十一條　擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百十二條　擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル

第百十三條　被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第百十四條　原告カ擔保ヲ供スヘキ期間内ニ之ヲ供セサルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ口頭辯論ヲ經スシテ訴ヲ却下スルトキハ裁判所ハ判決書原告ヲ審訊スルコトヲ要ス

第百十五條　擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ本由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦前項ニ同シ

訴訟ノ先決後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ催告シ擔保權利者カ其ノ行使ヲ爲ササルトキハ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノト看做ス

第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百十六條　裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變換ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リテ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス

第百十七條　第百九條、第百十條第一項及第百十一條乃至前條ノ規定ハ他ノ場合ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三節　訴訟上ノ救助

第百十八條　訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ者ニ對シテハ裁判所ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非サルトキニ限ル

第百十九條　訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與フ

救助ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第百二十條　訴訟上ノ救助ハ訴訟及强制執行ニ付左ノ效力ヲ生ス

一　裁判費用ノ支拂ノ猶豫

二　執行吏及裁判所ニ於テ附添ヲ命シタル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ノ猶豫

三　訴訟費用ノ擔保ノ免除

第百二十一條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニノミ其ノ效力ヲ有ス

裁判所ハ訴訟ノ承繼人ニ對シ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ命ス

第百二十二條　訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス資力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記錄ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニコモ救助ヲ取消シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコトヲ得

第百二十三條　訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂ヲ猶豫シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命セラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執行吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及强制執行ヲ爲スコトヲ得

辯護士又ハ執行吏ハ報酬及立替金ニ付當事者ニ代リ第百三條又ハ第百四條ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

第百二十四條　本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四章　訴訟手續

第一節　口頭辯論

第百二十五條　當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス但シ決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム

前項但書ノ規定ニ依リテ口頭辯論ヲ爲ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ヲ害訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第百二十六條　口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮ス

裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其ノ命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

第百二十七條　裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得

陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ前項ニ規定スル處置ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル說明ヲ求ムルコトヲ得

第百二十八條　裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ明セシムヘキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日前準備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百二十九條　當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ第百二十七條若ハ前條ノ規定ニ依ル裁判長若ハ陪席裁判官ノ處置ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス

第百三十條　受命裁判官又ハ其ノ職務ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ裁判官ヲ指定ス

裁判所ノ爲ス囑託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ノ爲ス囑託之ヲ準用ス

第百三十一條　裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコト

二　訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ物件ニシテ當事者ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト

三　當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト

四　檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト

五　必要ナル調査ヲ囑託スルコト

前項ニ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス

第百三十二條　裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分離若ハ併合ヲ命シ又ハ其ノ命ヲ取消スコトヲ得

第百三十三條　裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

第百三十四條　辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セサルトキ又ハ聾者ハ啞ナルトキハ通事ヲ立會ハシム但シ聾者又ハ啞者ニハ文字ヲ以テ問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス

第百三十五條　裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ禁シ辯論續行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

訴訟代理人ノ陳述ヲ禁シ又ハ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第百三十六條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス和解ヲ試ミ又ハ受命裁判官若ハ受託裁判官ヲシテ之ヲ試ミシムルコトヲ得

裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託裁判官ハ和解ノ爲當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第百三十七條　攻擊又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

第百三十八條　原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

第百三十九條　當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提出シタル攻擊又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

当事又ハ訴訟ノ方法ニシテ其ノ趣旨判然ナラサルモノニ付當事者カ必要ナル釋明ヲ爲サス又ハ釋明ヲ爲スヘキ期日ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ

第百四十條　當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ明ニ爭ハサルトキハ其ノ事實ヲ自白シタルモノト看做ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ爭ヒタルモノト認ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラサル旨ノ陳述ヲ爲シタル者ハ其ノ事實ヲ爭ヒタルモノト推定ス

第一項ノ規定ハ當事者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサル場合ニ之ヲ準用ス但シ口頭辯論期日ニ出頭セサル當事者カ公示送達ニ依ル呼出ヲ受ケタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百四十一條　當事者カ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テ遲滯ナク異議ヲ述ヘサルトキハ之ヲ述フル權利ヲ失フ但シ放棄スルコトヲ得ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百四十二條　口頭辯論ニ付テハ裁判所書記期日毎ニ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第百四十三條　調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及裁判所書記之ニ署名捺印シ裁判長支障アルトキハ陪席裁判官之ニ代テ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス但シ裁判官支障アルトキハ書記其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

一　事件ノ表示

二　判事及裁判所書記ノ氏名

三　立會ヒタル檢事ノ氏名

四　出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及通事並調査シタル當事者ノ氏名

五　辯論ノ場所及年月日

六　辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セサル場合ニ於テハ其ノ理由

第百四十四條　調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ特ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス

一　和解、認諾、撤案、取下及自白

二　證人、鑑定人ノ宣誓及陳述

三　檢證ノ結果

四　裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

五　書面ニ作ラサル裁判

六　裁判ノ言渡

第百四十五條　調書ニハ書記、當該裁判所ニ於テ通譯ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記錄ニ編綴シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得

第百四十六條　調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閲覽セシメ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

調書ノ記載ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルトキハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十七條　口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ違守ハ調書ニ依リテノミ之ヲ證スルコトヲ得但シ調書カ滅失シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百四十八條　裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ遠隔者ヲシテ口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ條記セシムルコトヲ得

第百四十九條　第百四十二條乃至前條ノ規定ハ裁判所ノ書記受命裁判官又ハ受託裁判官ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス

第百五十條　申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ裁判所書記ノ面前ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ書記調書ヲ作リ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第百五十一條　何人モ訴訟記錄ノ閲覽ヲ裁判所書記ニ請求スルコトヲ得但シ訴訟記錄ノ保存又ハ裁判所ノ執務ニ支障アルトキハ此ノ限ニ在ラス

公開ヲ禁止シタル口頭辯論ニ係ル訴訟記錄ニ付テハ當事者及利害關係ヲ疏明シタル第三者ニ限リ前項ノ規定ニ依ル請求ヲ爲スコトヲ得

當事者ハ訴訟記錄ノ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ訴訟ニ關スル証明ノ證明書ノ交付ヲ裁判所書記ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ疏明シタル第三者亦同シ

訴訟記錄ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其ノ正本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二節　期日及期間

第百五十二條　期日ハ裁判長之ヲ定ム

受託裁判官又ハ受託裁判官ノ審問ノ期日ハ其ノ裁判官之ヲ定ム期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著ナル事由ノ存セサルトキ雖當事者ノ合意アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケル最初ノ期日ノ變更亦同シ

第百五十三條　期日ハ已ムコトヲ得サル場合ニ限リ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第百五十四條　期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當該事件ニ付出頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ以テ足ル

第百五十五條　期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス

第百五十六條　期間ノ計算ハ民法ニ從フ

期間ノ末日カ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

第百五十七條　期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メサルトキハ其ノ期間ハ裁判カ效力ヲ生シタル時ヨリ進行ヲ始ム

第百五十八條　裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス

不變期間ニ付テハ裁判所ハ遠隔ノ地ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムルコトヲ得

裁判長、受命判事ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

第百五十九條　當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止ミタル後一週間内ニ限リ懈怠シタル訴訟行爲ノ追完ヲ

ル場合ニ於テハ之ヲ為スコトヲ得住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者カ送達ヲ受クルコトヲ拒マサルトキハ同シ

第百七十條　當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ屆出ツルコトヲ要ス

送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ屆出ヲ為ササルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛テ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第一項ノ屆出ハ送達ヲ受クヘキ者カ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ為スコトヲ得

第百七十一條　送達ヲ為スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

前項ニ掲クル者其ノ他書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ正當ノ事由ナクシテ書類ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ為スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得

第百七十二條　前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ為スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所書記書類ヲ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

第百七十三條　第七十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第百七十四條　日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日沒後ニ於テ執達吏ニ依ル送達ヲ為スニハ裁判長ノ許可アルコトヲ要ス

前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ之ヲ受領リタル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス

第百七十五條　外國ニ於テ為スヘキ送達ハ裁判長カ其ノ國ノ官憲又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ嘱託シテ之ヲ為ス

第百七十六條　削除

ハ役務ニ服スル艦船ノ乘組員ニ對スル送達ハ裁判長上官司令官ニ嘱託シテ之ヲ為ス

前項ノ送達ニ付テハ第百六十七條ノ規定ヲ準用ス

第百七十七條　送達ヲ為シタル吏員ハ書面ヲ作リ送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第百七十八條　當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ為スヘキ場所カ知レサル場合又ハ外國ニ於テ為スヘキ送達ニ付第百七十五條ノ規定ニ依ルコト能ハス若ハ之ニ依ルモ其ノ效ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ為スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ訴訟ノ遲滯ヲ避クル為必要アリト認ムルトキハ申立ナキトキト雖公示送達ヲ為スヘキコトヲ命スルコトヲ得

同一ノ當事者ニ對スル爾後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ為ス

第百七十九條　公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ掲示場ニ掲示シテ之ヲ為ス但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ掲示場ニ貼附シテ之ヲ為ス

裁判所ハ公示送達アリタルコトヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得但シ外國ニ於テ為スヘキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得

第百八十條　公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依ル掲示ヲ始メ又ハ貼附ヲ為シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス但シ第百七十八條第三項ノ公示送達ハ掲示ヲ始メ又ハ貼附ヲ為シタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

外國ニ於テ為スヘキ送達ニ付為シタル公示送達ニ在リテハ前項ノ期間ハ之ヲ六週間トス

前二項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ス

第百八十一條　送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命裁判官受託裁判官及送達地ノ地方裁判所ノ裁判官ハ之ヲ有ス

第四節　裁判

第百八十二條　訴訟カ裁判ヲ為スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ為ス

第百八十三條　訴訟ノ一部カ裁判ヲ為スニ熟スルトキハ裁判所ハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ為スコトヲ得

前項ノ規定ハ口頭辯論ノ併合ヲ命シタル數個ノ訴訟中其ノ一カ裁判ヲ為スニ熟スル場合及本訴又ハ反訴カ裁判ヲ為スニ熟スル場合ニ之ヲ準用ス

第百八十四條　別立シタル攻擊又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ爭ニ付裁判ヲ為スニ熟スルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ為ス

コトヲ得請求ノ原因及数額ニ付爭アル場合ニ於テ其ノ原因ニ付亦同シ

第百八十五條　裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス

第百八十六條　裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十七條　判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關與シタル裁判官之ヲ爲ス

裁判官更迭アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

單獨ノ裁判官ノ更迭アリタル場合ニ於テ從前訊問ヲ爲シタル證人ニ付當事者カ更ニ訊問ノ申出ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其ノ訊問ヲ爲スコトヲ要ス合議體ノ裁判官ノ過半數カ更迭シタル場合ニ於テ從前訊問ヲ爲シタル證人ニ付當事者カ更ニ訊問ノ申出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百八十八條　判決ハ言渡ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第百八十九條　判決ノ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス

裁判長ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告クルコトヲ得

第百九十條　判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間內ニ之ヲ爲ス但シ亦件簡單ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

判決ノ言渡ハ當事者カ在場セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條　判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル裁判官之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　主文
二　事實及爭點
三　理由
四　當事者及法定代理人
五　裁判所

事實及爭點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ摘示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判官　判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ裁判官　判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス

第百九十二條　判決ハ言渡後遲滯ナク之ヲ裁判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第百九十三條　判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間內ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス

第百九十三條ノ二　判決カ法令ニ違背シタルコトヲ發見シタルトキハ裁判所ハ其ノ言渡後一週間內ニ限リ變更ノ判決ヲ爲スコトヲ得但シ判決確定シ

タルトキ又ハ判決ヲ變更スル爲事件ニ付尙辯論ヲ爲ス必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

變更ノ判決ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲ス

前項ノ判決ノ言渡期日ノ呼出ニ於テハ公示送達ニ依ル場合ヲ除クノ外呼出狀ヲ送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所ニ宛テ發シタル時ニ於テ其ノ送達アリタルモノト看做ス

第百九十四條　判決ニ違算ハ書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得

更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作リ之ヲ當ト者ニ送達スルコトヲ要ス

更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　裁判所カ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬スルトキハ訴訟費用ノ裁判ヲ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

訴訟費用ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴訟費用ニ付裁判ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ第百四條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依ル訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テ控訴裁判所ノ裁判權ヲ否認セサル

判所ハ訴訟ノ無費用ニ付裁判ヲ爲ス

第百九十六條　財產權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セシメテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

前二項ノ宣言ハ判決主文ニ之ヲ掲クルコトヲ要ス

第百九十七條　第百十二條、第百十三條、第百十五條及第百十六條ノ規定ハ前條ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第百九十八條　假執行ノ宣言ハ其ノ宣言又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ

本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノノ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス

假執行ノ宣言ノミヲ變更シタルトキハ後ニ本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

第百九十九條　確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限リ既判力ヲ有ス

相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有ス

第二百條　外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス

一　法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ裁判權ヲ否認セサルコト

二　敗訴ノ被告カ日本人ナル場合ニ於テ公示送達ニ依フスシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタルコトナク又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコト

三　外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサルコト

四　相互ノ保證アルコト

第二百一條　確定判決ハ當事者、口頭辯論終結後ノ承繼人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對スル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス

第二百二條　不適法ナル訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第百十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三條　和解又ハ請求ノ拋棄若ハ認諾ヲ調書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四條　決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

第二百五條　訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二百六條　裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ニ付テハ其ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

第二百七條　決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七條ノ二　判決以外ノ裁判ハ判事補單獨ニテ之ヲ爲スコトヲ得

第五節　訴訟手續ノ中斷及中止

第二百八條　當事者カ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相續財産管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟ヲ續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得ス

第二百九條　當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條　當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ法定代理人カ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有スルニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十一條　受託者ノ委託ノ任務終了シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ新受託者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十二條　一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ資格ヲ有スル者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス當事者ノ死亡ニ因リ訴訟手續ノ中斷シタル場合亦同シ

第二百十三條　第百十七條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選定セラレタル當事者ノ全員カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ原告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十四條　第二百八條第一項、第二百九條第一項及第二百十條乃至前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ準用セス

第二百十五條　當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産財團ニ關スル訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テ破産法ニ依ル受繼アル迄破産手續ノ停止アリタルトキハ破産者ハ當然訴訟手續ヲ受繼ス

破産法ニ依リテ破産財團ニ關スル訴訟手續ノ受繼アリタル後破産手續ノ停止アリタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十六條　訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百十七條　訴訟手續受繼ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第二百十八條　訴訟手續受繼ノ申立ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナシト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ要ス

裁判ノ送達後中斷シタル訴訟手續ノ受繼ニ付テハ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條　訴訟手續ノ受繼ノ申立ハ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲ス

第二百二十條　訴狀ニハ當事者、法定代理人及請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要ス

準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條　準備ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ヲ確定スル爲ニモ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十六條　請求ノ給付ヲ求ムル訴ハ數メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十七條　數個ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ

ヲ爲シタル裁判所ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條　裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササル場合ニ於テモ職權ヲ以テ其ノ續行ヲ命スルコトヲ得

第二百二十條　天災其ノ他ノ事故ニ因リテ裁判所カ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス

第二百二十一條　當事者カ不可抗力ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第二百二十二條　判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中斷中ト雖之ヲ爲スコトヲ得

訴訟手續ノ中斷又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ受繼ノ通知又ハ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ム

第二編　第一審ノ訴訟手續

第一章　訴

第二百二十三條　訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百二十四條　訴狀ニハ當事者、法定代理人及請求ノ趣旨及原因ヲ記載スルコトヲ要ス

準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條　準備ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ヲ確定スル爲ニモ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十六條　請求ノ給付ヲ求ムル訴ハ數メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十七條　數個ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ

訴リ一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十八條　訴狀カ第二百二十四條第一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス法律ノ規定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同シ

原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ要ス

前項ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添附スルコトヲ要ス

第二百二十九條　訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス

前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十條　訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス

第二百三十一條　裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十二條　原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限リ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得但シ之ニ因リ著シク訴訟手續ヲ遲滯セシムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲ストヲ要ス

前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第二百三十三條　裁判所カ請求又ハ請求ノ原因ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許サナル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十四條　裁判カ訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立ニ關スルトキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關係ノ確認ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ專屬ニ屬スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ請求ニ關スル訴訟ノ係屬中ハ其ノ請求ニ關スル訴ヲ提起スルコトヲ得

第二百三十五條　裁判長ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄ニ當事者ノ主張ノ要點ヲ明ニスヘキ書面ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第二百三十六條　裁判長ハ準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所

二　代理人ノ氏名、職業及住所

三　事件ノ表示

四　攻擊又ハ防禦ノ方法

五　相手方ノ請求及攻擊又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述

六　附屬書類ノ表示

七　年月日

八　裁判所ノ表示

第二百三十七條　準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判長ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得

第二百三十八條　準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所

二　代理人ノ氏名、職業及住所

手方カ其請ヲ述ヘサルトキ亦同シ

第二百三十七條　訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做ス

本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百三十八條　當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ三月内ニ期日指定ノ申立ヲ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

第二百三十九條　被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求カ他ノ裁判所ノ專屬ニ亦屬セサルトキ及本訴ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル

第二百四十條　反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル

第二百四十一條　本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下クルコトヲ得

第二章　辯論及其ノ準備

第二百四十二條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス

第二百四十三條　準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得

第二百四十四條　準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所

二　代理人ノ氏名、職業及住所

ヤ証拠ニ付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス
受命裁判官相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以テ前項ノ陳述
及調査ニ代フルコトヲ得
第二百五十一條　當事者ノ一方カ期日ニ出頭セサルトキハ前
條ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼
出スコトヲ得
第二百五十二條　受命裁判官　〜當事者ヲシテ準備書面
ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百四十三條
ノ規定ヲ準用ス
第二百五十三條　當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ
依リ受命裁判官　ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セ
サルトキハ受命裁判官　ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得
第二百五十四條　當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ
陳述スルコトヲ要ス
第二百五十五條　調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサ
ル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス但シ其ノ
事項カ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、等ケ解
釈ヲ過當セシメサルトキ又ハ重大ナル過失ナクシテ準備手
續ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハサリシコトヲ疎明シタルト
キハ此ノ限ニ在ラス
前項但書ノ規定ハ第二百四十七條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
訴狀又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面ニ記載シタル事
項ハ調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサルモノト雖
口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス
第二百五十六條　第二百二十六條乃至第百三十九條、第百三
十一條、第百三十三條乃至第百四十一條及第二百三十八條
ノ規定ハ準備手續ニ之ヲ準用ス

第三章　證據

第一節　總則

第二百五十七條　裁判所ニ於テ當事者カ自白シタル事實及顯
著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス
第二百五十八條　證據ノ申出ハ證スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ
爲スコトヲ要ス
證據ノ申出ハ期日前ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得
第二百五十九條　當事者ノ申出テタル證據ニシテ裁判所ニ於
テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ要セス
第二百六十條　證據調ニ付不定期間ノ障碍アルトキハ裁判所
ハ證據調ヲ延サルコトヲ得
第二百六十一條　削除
第二百六十二條　裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外
國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ
團體ニ囑託スルコトヲ得
第二百六十三條　證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セサル場合ニ
於テモ之ヲ爲スコトヲ得
第二百六十四條　外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ管轄
官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之
ヲ囑託シテ爲スコトヲ要ス
外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモ本
法ニ違背セサルトキハ其ノ效力ヲ有ス
第二百六十五條　裁判所ハ相當ト認ムルトキハ裁判所外ニ於
テ證據調ヲ爲スコトヲ得他ノ場合ニ於テハ合議體ノ構成

員ニ命シ又ハ地方裁判所若ハ簡易裁判所ニ囑託シ
テ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得
受託裁判官　カ他ノ地方裁判所又ハ簡易裁判
所ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ相當ト認ムルトキハ更ニ證
據調ノ囑託ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受
訴裁判所及當事者ニ通知スルコトヲ要ス
第二百六十六條　受託判事　ハ證據調ニ關スル記錄
ヲ受訴裁判所　所ニ送付スルコトヲ要ス
第二百六十七條　疎明ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘキ證據ニ
依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
裁判所ハ當事者若ハ法定代理人ヲシテ保證金ヲ供託セシメ
又ハ其ノ主張ノ眞實ナルコトヲ宣誓セシメ之ヲ以テ疎明ニ
代フルコトヲ得
第二百八十六條乃至第二百八十九條ノ規定ハ前項ノ宣誓ニ
之ヲ準用ス
第二百六十八條　前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金ノ供託ヲ
爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛僞ノ申述ヲ爲シタルト
キハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒收ス
第二百六十九條　第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓
ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛僞ノ申述ヲ爲シタル
トキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ五千圓以下
ノ過料ニ處ス
第二百七十條　第二百六十八條及前條ノ決定ニ對シテハ即時
抗告ヲ爲スコトヲ得

第二節　證人訊問

第二百七十一條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外
何人ト雖モ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得
第二百七十二條　官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上
ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ當該官廳ノ
承認ヲ得ルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ他ノ公務員ニ付之ヲ準用ス
第二百七十三條　內閣總理大臣其ノ他ノ國務大臣
又ハ其ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ
秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ內閣ノ
承認ヲ得ルコトヲ要ス
第二百七十四條　衆議院若ハ參議院ノ職員又ハ職員タリ
シ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ
裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス
第二百七十五條　證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲ス
コトヲ要ス
第二百七十六條　證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコト
ヲ要ス
一　當事者ノ表示
二　訊問事項ノ要領
三　出頭セサル場合ニ於ケル法律上ノ制裁
第二百七十七條　證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭
セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生

シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五千圓以下ノ過料ニ處スル旨ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百七十七條ノ二　證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ五千圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ罰金及拘留ヲ併科スルコトヲ得

第二百七十八條　裁判所ハ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル證人ノ勾引ヲ命スルコトヲ得

前項ノ勾引ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百七十九條　左ノ場合ニ於テハ受命裁判官　又ハ受託裁判官　ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

一　證人カ受訴裁判所ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキ

二　證人カ受訴裁判所ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ

第二百八十條　證言カ證人又ハ左ニ掲クル者ノ刑事上ノ訴追又ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ關スルトキ亦同シ

一　證人ノ配偶者、四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族又ハ證人ト此等ノ親族關係アリタル者

二　證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者

三　證人カ主人トシテ仕フル者

第二百八十一條　左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一　第二百七十二條乃至第二百七十四條ノ場合

一　醫師、歯科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯理士、輔佐人、公證人、宗教又ハ祭祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者カ職務上知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ付訊問ヲ受クルトキ

三　技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ

前項ノ規定ハ證人カ默秘ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百八十二條　證言拒絕ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第二百八十三條　第二百八十一條第一項第一號ノ場合ヲ除クノ外證言拒絕ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス

證言拒絕ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條　證言拒絕ヲ理由ナシトスル裁判確定シタル後證人カ故ナク證言ヲ拒ムトキハ第二百七十七條及第二百七十七條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第二百八十五條　裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十六條　宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第二百八十七條　裁判長ハ宣誓前宣誓ノ趣旨ヲ豫示シ且偽證ノ制裁ヲ警告スルコトヲ要ス

第二百八十八條　宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハサルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百八十九條　左ニ掲クル者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

一　十六年未滿ノ者

二　宣誓ノ趣旨ヲ理解スルニト能ハサル者

第二百九十條　第二百八十條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絕ノ權利ヲ行ハサル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

第二百九十一條　證人カ自己又ハ第二百八十條ニ掲クル者ニ對シ刑事訴訟關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得

第二百九十二條　宣誓ヲ爲サシメスシテ證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及其由ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第二百九十三條　第二百七十七條、第二百七十七條ノ二、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス

第二百九十四條　證人ハ其ノ訊問ノ申出ヲ爲シタル當事者先ツ之ヲ訊問シ其ノ訊問ノ終リタル後他ノ當事者之ヲ訊問スルコトヲ得

裁判長ハ當事者ノ訊問ノ終リタル後證人ヲ訊問スルコトヲ得

裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ自ラ訊問シ又ハ當事者ノ訊問ヲ許スコトヲ得

當事者ノ訊問カ既ニ爲シタル訊問ト重複スルトキ、爭點ニ關係ナキ事項ニ亘ルトキ其ノ他特ニ必要アリト認ムルトキハ裁判長ハ之ヲ制限スルコトヲ得

陪席裁判官ハ裁判長ニ告ケ證人ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九十五條　當事者ハ前條ノ規定ニ依ル訊問ノ許否又ハ制限ニ付異議ヲ述フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所異議ニ付裁判ヲ爲ス

第二百九十六條　裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得

第二百九十七條　裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百九十八條　裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在廷ヲ許スコトヲ得

第二百九十九條　證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百條　受命裁判官　又ハ受託裁判官　カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所及裁判長ノ職務ハ其ノ裁判官

之ヲ行フ但シ第二百九十五條ノ規定ニ依ル異議ノ裁判ハ受訴裁判所之ヲ爲ス

第三節　鑑定

第三百一條　鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前節ノ證定ヲ準用ス

第三百二條　鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百八十條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス

第三百三條　鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス

第三百四條　鑑定人ハ受訴裁判所、受命裁判官　又ハ受託裁判官之ヲ指定ス

第三百五條　鑑定人ニ付說實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ訪クヘキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ヲ忌避スルコトヲ得陳述ヲ爲シタルトキト雖其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第三百六條　忌避ノ申立ハ受訴裁判所、受命裁判官　又ハ受託裁判官ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

忌避ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

忌避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七條　宣誓者ニハ良心ニ從ヒ說實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

裁判長ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ其同ニテ又ハ各別ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得

第三百九條　特別ノ學識經驗ニ依リテ知リ得タル事實ニ關スル訊問ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル

第三百十條　裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ嘱託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本節ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ指定シタル者ヲシテ鑑定書ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第四節　書證

第三百十一條　書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命セムルコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十二條　左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス

一　當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ自ラ所持スルトキ

二　舉證者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡又ハ閲覽ヲ求ムルコトヲ得ルトキ

三　文書カ舉證者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ舉證者ト文書ノ所持者トノ間ノ法律關係ニ付作成セラレタルトキ

第三百十三條　文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明スルコトヲ要ス

一　文書ノ表示

二　文書ノ趣旨

三　文書ノ所持者

四　證スヘキ事實

五　文書提出ノ義務ノ原因

第三百十四條　裁判所カ文書提出ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス

第三百十五條　文書ノ所持者ニ對シ文書ノ提出ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲ審問スルコトヲ要ス

第三百十六條　文書提出ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十七條　當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十八條　當事者カ相手方ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ提出ノ義務アル文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコトヲ困難ナラシメタルトキハ裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百十九條　第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五千圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百二十條　書證ノ申出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ其ノ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ謄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十一條　裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ提出又ハ送付ニ係ル文書ヲ留置クコトヲ得

第三百二十二條　第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命裁判官又ハ受託裁判官ヲシテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所ハ受命裁判官　又ハ受託裁判官ノ調書ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ調書ニハ文書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第三百二十三條　文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ認證アル謄本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス原本ノ提出ヲ命シ又ハ裁付ヲ爲サシムルコトヲ得

裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ謄本又ハ抄本ヲ提出セシムルコトヲ得

第三百二十四條　文書ハ其ノ方式及趣旨ニ依リ官吏其ノ他ノ公務員カ職務上作成シタルモノト認ムヘキトキハ之ヲ眞正ナル公文書ト推定ス

公文書ノ眞否ニ付疑アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ當該官廳又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ得

第三百二十五條　前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス

第三百二十六條　私文書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス

第三百二十七條　文書ノ眞否ハ筆跡又ハ印影ノ對照ニ依リテモ之ヲ證スルコトヲ得

第三百二十八條　第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆跡又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出ヲ要ス

又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五千圓以下ノ過料ニ處ス

此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百二十九條　對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

相手方カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ノ眞否ニ關スル事實者ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得書載ヲ綴シテ手記シタルトキ亦同シ

第三百三十條　對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ訓書ニ添附スルコトヲ要ス

第三百三十一條　當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五千圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル當事者又ハ代理人カ訴訟ノ結果上其ノ眞正ナルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

第三百三十二條　本節ノ規定ハ證據ノ爲作成サレタル物件ニシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準用ス

第五節　檢證

第三百三十三條　檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十四條　受命裁判官又ハ受託裁判官ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條　第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ提示又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提示ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五千圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六節　當事者訊問

第三百三十六條　裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百三十七條　裁判長必要アリト認ムルトキハ當事者相互又ハ當事者ノ證人トノ對質ヲ命スルコトヲ得

第三百三十八條　當事者カ正當ノ事由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ宣誓ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

第三百三十九條　宣誓シタル當事者カ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五千圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決定ニ之ヲ準用ス

第三百三十條　當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓ヲ爲サシメタルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第三百三十一條　第三百三十六條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ代表スル法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ妨ケス

第三百三十二條　第二百七十六條、第二百七十九條、第二百八十五條乃至第二百八十九條、第二百九十四條、第二百九十五條、第二百九十七條、第二百九十九條及第三百條ノ規定ハ本節ノ訊問ニ之ヲ準用ス

第七節　證據保全

第三百三十三條　裁判所ハ豫メ證據調ヲ爲スニ非サレハ其ノ證據ヲ使用スルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本章ノ規定ニ從ヒ證據調ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條　證據保全ノ申立ハ訴訟ノ繫屬中ニ在リテハ其ノ證據ヲ使用スヘキ審級ノ裁判所ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ者若ハ文書ヲ所持スル者ノ居所又ハ檢證物ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ簡易裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

急迫ナル場合ニ於テハ訴ノ提起後ト雖前項ノ地方裁判所又ハ簡易裁判所ニ證據保全ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百三十五條　證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一　相手方ノ表示

二　證スヘキ事實

三　證據

四　證據保全ノ事由

證據保全ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百三十六條　證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコトヲ要セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得

第三百三十七條　裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ訴訟ノ繫屬中職權ヲ以テ證據保全ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百三十八條　證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百三十九條　證據調ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコトヲ要ス但シ急迫ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百三十條　證據保全ニ關スル記錄ハ本訴訟ノ記錄ノ存スル裁判所ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第三百三十一條　證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス

第三百三十一條ノ二　證據保全ノ手續ニ於テ訊問シタル證人ニ付當事者カ口頭辯論ニ於ケル訊問ノ申出ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ其ノ訊問ヲ爲スコトヲ要ス

第四章　簡易裁判所ノ訴訟手續ニ關スル特則

第三百三十二條　簡易裁判所ニ於テハ簡易ナル手續ニ依リ迅速ニ紛議ヲ解決スルモノトス

第三百三十三條　訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百三十四條　當事者雙方ハ任意ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ

付口頭辯論ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲ス

第三百五十五條　被告カ反訴ヲ以テ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル請求ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方ノ申立アルトキハ簡易裁判所ハ決定ヲ以テ本訴及反訴ヲ地方裁判所ニ移送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ條三十二條及條三十四條ノ規定ヲ準用ス

移送ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立フルコトヲ得ス

第三百五十六條　民事上ノ爭ニ付テハ當事者ハ請求ノ趣旨及原因並爭ノ實情ヲ表示シテ相手方ノ普通裁判籍所在地ノ簡易裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第三百五十六條ノ二　期日ニ於ケル呼出ハ第百五十四條ニ定ムル方法以外ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ期日ニ出頭セサル當事者、證人又ハ鑑定人ニ對シ法律上ノ制裁其ノ他期日ノ懈怠ニ因ル不利益ヲ蒙スルコトヲ得ス

和解調ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタルモノト看做シ和解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ和解調ハサルモノト看做スコトヲ得

第三百五十七條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

相手方カ準備ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲スコト能ハスト認ムヘキ事項ハ前項ノ規定ニ拘ラス書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ準備書面ノ提出ニ代ヘ口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ノ通知スルコトヲ得

第二百四十七條ノ規定ハ前項ノ通知ヲ爲ササル場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十八條　第百三十八條ノ規定ハ原告又ハ被告カ口頭辯論續行ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササル場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十八條ノ二　調書ハ當事者ニ異議アル場合ヲ除クノ外裁判官ノ許可アルトキハ之ニ記載スヘキ事項ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ規定ハ口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ遵守並和解、認諾、拋棄、取下及自白ニ付テハ之ヲ適用セス

第三百五十八條ノ三　裁判所ハ相當ト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ代ヘ書面ノ提出ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百五十八條ノ四　裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ和解ヲ試ミルニ付司法委員ヲシテ補助ヲ爲サシメ又ハ司法委員ヲシテ審理ニ立會ハシメ事件ニ付其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第三百五十八條ノ五　司法委員ノ員數ハ各事件ニ付一人以上トス

司法委員ハ毎年豫メ地方裁判所ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付裁判所之ヲ指定ス

前項ノ規定ニ依リ選任セラルル者ノ資格、員數其ノ他同項ノ選任ニ關シ必要ナル事項ハ最高裁判所之ヲ定ム

第三百五十八條ノ六　司法委員ニ對シテハ最高裁判所ノ定ムル額ノ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第三百五十九條　判決ニ亦實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨、其ノ原因ノ有無並請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル

第二編　上訴

第一章　控訴

第三百六十條　控訴ハ地方裁判所カ第一審トシテ爲シタル終局判決又ハ簡易裁判所ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ終局判決後當事者雙方共ニ上訴ヲ爲ス權利ヲ留保シテ控訴ヲ爲サナル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條第二項ノ規定ハ前項ノ合意ニ之ヲ準用ス

第三百六十一條　訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十二條　終局判決前ノ裁判ハ控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ此ノ限ニ在ラス

第三百六十三條　控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコト

第二百三十六條第三項第五項、第二百三十七條第一項及第二百三十八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス

第三百六十四條　控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百六十五條　控訴權ノ拋棄ハ控訴提起前ニ在リテハ第一審裁判所、控訴提起後ニ在リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴提起後ノ控訴權ノ拋棄ハ控訴ノ取下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴權拋棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第三百六十六條　控訴ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ其ノ期間前提起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第三百六十七條　控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者及法定代理人

二　第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨

第三百六十八條　準備書面ニ關スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス

第三百六十九條　第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキ

ハ裁判所書記ハ訴訟記錄ニ控訴狀ヲ添附シテ遅滯ナク之ヲ控訴裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス
控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ遅滯ナク第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記錄ノ送付ヲ求ムルコトヲ要ス

第三百七十條　第二百二十八條ノ規定ハ控訴狀カ第三百六十、七條第二項ノ規定ニ違背スル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條　控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送達スルコトヲ要ス

第三百七十二條　被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條　附帶控訴ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ不適法トシテ控訴ノ棄却アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件ヲ具備スルモノハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス

第三百七十四條　附帶控訴ニ付テハ控訴ニ關スル規定ニ依ル

第三百七十五條　控訴裁判所ハ第一審ノ判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第三百七十六條　假執行ニ關スル控訴審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
前條ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條　口頭辯論ハ當事者カ第一審ノ判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ於テノミ之ヲ爲ス
當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

第三百七十八條　前條第一項乃至第三項ノ規定ハ訴訟ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第三百七十九條　第一審ニ於テ爲シタル訴訟行爲ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十條　第一審ニ於テ爲シタル準備手續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十一條　控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審裁判所カ當事者ニ對シテ爲シタル終局判決ニ對シテハ高等裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十二條　反訴ハ相手方ノ同意アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得
相手方カ異議ヲ述ヘスシテ反訴ノ本案ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ反訴ノ提起ニ同意シタルモノト看做ス

第三百八十三條　不適法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第百十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十四條　控訴裁判所ハ第一審判決ヲ相當トスルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス
判決カ其ノ理由ニ依レハ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ依リテ正當ナルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

第三百八十四條ノ二　前條第一項ノ規定ニ依リ控訴ヲ棄却スル場合ニ於テ控訴人カ訴訟ノ完結ヲ

遅延セシムル目的ノミヲ以テ控訴ヲ提起シタルモノト認ムルトキハ控訴裁判所ハ之ニ對シ控訴狀ニ貼用スヘキ印紙金額ノ十倍以下ノ金錢ノ納付ヲ命スルコトヲ得
前項ノ裁判ハ判決主文ニ之ヲ掲クルコトヲ要ス

第一項ノ裁判ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

上告裁判所ハ上告ヲ棄却スル場合ニ於テモ第一項ノ裁判ヲ變更スルコトヲ得

第三百八十五條　第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第三百八十六條　控訴裁判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十七條　第一審ノ判決ノ手續カ法律ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス

第三百八十八條　訴ヲ不適法トシテ却下シタル第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴裁判所ハ本件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ要ス

第三百八十九條　前條ノ場合ノ外控訴裁判所カ第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テ本件ニ付尙辯論ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得
第一審裁判所ニ於ケル訴訟手續カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ本件ヲ差戻ストキハ其ノ訴訟手續ハ之ニ因リテ取消サレタルモノト看做ス

第三百九十條　本件カ管轄違ナルコトヲ理由トシテ第一審判決ヲ取消ストキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ本件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

第三百九十一條　判決ニ本案及理由ヲ記載スルニハ第一審判決ヲ引用スルコトヲ得

第三百九十二條　訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナクシテ上訴期間滿了シタルトキハ裁判所書記ハ判決又ハ第三百七十條ノ規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟記錄ニ添附シ之ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

第二章　上告

第三百九十三條

上告ハ高等裁判所カ第二審又ハ第一審トシテ爲シタル終局判決ニ對シテハ最高裁判所ニ、地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル終局判決ニ對シテハ高等裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三百六十條第一項但書ノ場合ニ於テハ地方裁判所ノ判決ニ對シテハ最高裁判所ニ、簡易裁判所ノ判決ニ對シテハ高等裁判所ニ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十四條　上告ハ判決カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條　判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法令ニ違背シ

タルモノトス

一　法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二　法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得サル裁判官カ判決ニ關與シタルトキ

三　專屬管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ

四　法定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

五　口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ

六　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

前項第四號ノ規定ハ第五十四條又ハ第八十七條ノ規定ニ依ル追認アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百九十六條　前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

第三百九十七條　上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書記ヨリ訴訟記錄ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第三百九十八條　上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサルトキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百九十九條　上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出セサルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得

第四百條　裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ提出スヘキコトヲ被告人ニ命スルコトヲ得

第四百一條　上告裁判所カ上告狀、上告理由書、答辯書、其ノ他ノ書類ニ依リ上告ヲ理由ナシト認ムルトキハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得

第四百二條　上告裁判所ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタル限度ニ於テノミ調査ヲ爲ス

第四百三條　原判決ニ於テ適法ニ確定シタル事實ハ上告裁判所ヲ羈束ス

第四百四條　第三百九十三條第二項ノ規定ニ依ル上告アリタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破棄スルコトヲ得ス

第四百五條　第四百二條乃至前條ノ規定ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ之ヲ適用セス

第四百六條　上告裁判所ハ原判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限リ申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第四百六條ノ二　高等裁判所カ上告裁判所タル場合ニ於テ最高裁判所ノ定ムル事由アルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ最高裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

第四百七條　上告ヲ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ原判決ヲ破棄シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新ロ頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ上告裁判所カ破棄ノ理由ト爲シタル事實上及法律上ノ判斷ニ羈束セラル

原判決ニ關與シタル判事ハ前項ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス

第四百八條　左ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス

一　確定シタル事實ニ付法令ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ判決ヲ破棄スル場合ニ於テ事件カ其ノ事實ニ基キ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ

二　事件カ裁判所ノ權限ニ屬セサルコトヲ理由トシテ判決ヲ破棄スルトキ

第四百九條　差戻又ハ移送ノ判決アリタルトキハ裁判所書記ハ其ノ判決ノ正本ヲ訴訟記錄ニ添附シ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

第四百九條ノ二　高等裁判所カ上告審トシテ爲シタル終局判決ニ對シテハ其ノ判決ニ於テ法律、命令、規則又ハ處分カ憲法ニ適合スルヤ否ニ付爲シタル判斷ノ不當ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ最高裁判所ニ更ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百九條ノ三　前條ノ上告及其ノ上告審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ第二審又ハ第一審ノ終局判決ニ對スル上告ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第四百三條中原判決トアルハ之ヲ地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル終局判決又ハ簡易裁判所ノ終局判決トス

第四百九條ノ四　上告裁判所ノ判決ニ對シテハ其ノ判決カ法令ニ違背スルコトヲ理由トスル場合ニ限リ其ノ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四百九條ノ五　異議ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ申立ツルコトヲ要ス但シ其ノ期間前申立ヲタル異議ノ效力ヲ妨ケス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百九條ノ六　異議ヲ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ變更ノ判決ヲ爲スコトヲ要ス

異議ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

第百九十三條ノ二第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章　抗告

第四百十條　口頭辯論ヲ經スシテ訴訟手續ニ關スル申立ヲ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十一條　決定又ハ命令ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得サル事項ニ付決定又ハ命令ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條　受命裁判官　受託裁判官　又ハ受託裁判官ノ裁判ニ對シ不服アル當事者ハ受訴裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ裁判カ受訴裁判所ノ裁判ナル場合ニ於テ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルモノナルトキニ限ル

抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ最高裁判所又ハ高等裁判所ニ繫屬スル事件ニ付受命裁判官又ハ受託裁判官ノ爲シタル裁判ニ之ヲ準用ス

第四百十三條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其ノ決定ヲ論合ニ進官シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條　抗告及抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ第一審ノ規定ヲ準用ス但シ前條ノ抗告ニ關スル訴訟手續ニハ前事ノ規定ヲ準用ス

第四百十五條　即時抗告ハ裁判ノ告知アリタル日ヨリ一週間內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百十六條　抗告ハ原裁判所又ハ抗告裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ要ス

抗告裁判所カ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テ進官ト認ムルトキハ事件ヲ原裁判所ニ送付スルコトヲ得

第四百十七條　原裁判所カ抗告ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事件ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ其ノ裁判ヲ更正スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ事件ヲ抗告裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第四百十八條　抗告ハ即時抗告ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所又ハ原裁判ヲ爲シタル裁判所若ハ判事ハ抗告ニ付決定アル迄原裁判ノ執行ヲ停止シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四百十九條　抗告裁判所ハ抗告ニ付日頭辯論ヲ命セサル場合ニ於テハ抗告人其ノ他ノ利害關係人ヲ審訊スルコトヲ得

第四百十九條ノ二　不服ヲ申立ツルコトヲ得サル決定及命令ニ對シテハ其ノ裁判ニ於テ法律、命令、規則又ハ處分カ憲法ニ適合スルヤ否ニ付原裁判所カ爲シタル判斷ノ不當ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ最高裁判所ニ特ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ抗告ノ提起期間ハ五日トス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百十九條ノ三　前條ノ抗告及之ニ關スル訴訟手續ニハ第四百十八條第二項ノ規定ヲ準用スル

ノ外其ノ性質ニ反セサル限リ第四百九條ノ二ノ上告及其ノ上告審ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第四編　再審

第四百二十條　左ノ場合ニ於テハ確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ當事者カ上訴ニ依リ其ノ事由ヲ主張シタルトキ又ハ之ヲ知リテ主張セサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

一　法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二　法律ニ因リ裁判ニ關與スルコトヲ得サル裁判官カ裁判ニ關與シタルトキ

三　法定代理人、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

四　裁判ニ關與シタル裁判官カ事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルトキ

五　刑事上罰スヘキ他人ノ行爲ニ因リ自白ヲ爲スニ至リタルトキ又ハ判決ハ影響ヲ及ホスヘキ攻擊若ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ妨ケラレタルトキ

六　判決ノ證據ト爲リタル文書其ノ他ノ物件カ僞造又ハ變造セラレタルモノナリシトキ

七　證人、鑑定人、通事又ハ宣誓シタル當事者若ハ法定代理人ノ虛僞ノ陳述カ判決ノ證據ト爲リタルトキ

八　判決ノ基礎ト爲リタル民事若ハ刑事ノ判決其ノ他ノ裁判又ハ行政處分カ後ノ裁判又ハ行政處分ニ依リテ變更セラレタルトキ

九　判決ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル事項ニ付判斷ヲ遺脫シタルトキ

十　不服ノ申立アル判決カ前ニ言渡サレタル確定判決ト抵觸スルトキ

前項第四號乃至第七號ノ場合ニ於テハ關スヘキ行爲ニ付有罪ノ判決若ハ過料ノ裁判確定シタルトキ又ハ證據欠缺外ノ理由ニ因リ有罪ノ確定判決若ハ過料ノ確定裁判ヲ得ルコト能ハサルトキニ限リ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

控訴審ニ於テ事件ニ付本案判決ヲ爲シタルトキハ第一審ノ判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第四百二十一條　判決ノ基本タル裁判ニ付前條ニ定メタル事由アルトキハ其ノ裁判ニ對シ獨立ノ不服ノ方法ヲ定メタル場合ニ於テモ其ノ事由ヲ以テ判決ニ對スル再審ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十二條　再審ハ不服ノ申立アル判決ヲ爲シタル裁判所ノ專屬管轄トス

審級ヲ異ニスル裁判所カ同一事件ニ付爲シタル判決ニ對スル再審ノ訴ハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第四百二十三條　再審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ各審級ニ於ケル訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百二十四條　再審ノ訴ハ當事者カ判決確定後再審ノ事由ヲ知リタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

判決確定後五年ヲ經過シタルトキハ再審ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

再審ノ事由カ判決確定後ニ生シタルトキハ前項ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四百二十五條　前條ノ規定ハ代理權ノ欠缺及第四百二十條第一項第十號ニ掲ケル事項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セス

第四百二十六條　訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者及法定代理人

二　不服ノ申立アル判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムル旨

三　不服ノ理由

第四百二十七條　本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍內ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

不服ノ理由ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第四百二十八條　再審ノ申由アル場合ニ於テモ判決ヲ正當トスルトキハ裁判所ハ再審ノ訴ヲ却下スルコトヲ要ス

第四百二十九條　即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定又ハ命令カ確定シタル場合ニ於テ第四百二十條第一項ニ掲クル事由アルトキハ確定判決ニ對スル第四百二十條乃至前條ノ規定ニ準シ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五編　督促手續

第四百三十條　金錢其ノ他ノ代替物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付テハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ヲ發スルコトヲ得但シ日本ニ於テ公示送達ニ依ラスシテ其ノ命令ノ送達ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

第四百三十一條　督促手續ハ債務者ノ普通裁判籍所在地ノ簡易裁判所ノ又ハ第九條ノ規定ニ依ル管轄簡易裁判所ノ專屬管轄トス

第四百三十二條　支拂命令ノ申立ニハ其ノ性質ニ反セサル限リ訴ニ關スル規定ヲ準用ス

支拂命令ノ申立カ第四百三十條若ハ管轄ニ關スル規定ニ違背スルトキ又ハ申立ノ趣旨ニ依リ請求ノ理由ナキコト明ナルトキハ其ノ申立ハ之ヲ却下スルコトヲ要ス請求ノ一部ニ付支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキ其ノ一部ニ付亦同シ

申立却下ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百三十四條　支拂命令ハ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ發

ス

債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　支拂命令ニハ當事者、法定代理人及請求ノ趣旨及原因ヲ記載シ且債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間內ニ異議ヲ申立テサルトキハ債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百三十六條　支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

第四百三十七條　債務者カ假執行ノ宣言前異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其ノ異議ノ範圍內ニ於テ效力ヲ失フ

第四百三十八條　債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間內ニ異議ヲ申立テサルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

假執行ノ申立却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百三十九條　債務者カ假執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ三十日內ニ其ノ申立ヲ爲ササルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百四十條　假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令送達ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ債務者ハ其ノ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百四十一條　簡易裁判所カ異議ヲ不適法ト認ムルトキハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ決定ヲ以テ其ノ異議ヲ却下スルコトヲ要ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條　支拂命令ニ對シ適法ナル異議ノ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付テハ其ノ目的ノ價額ニ從ヒ支拂命令ノ申立ノ時ニ於テ其ノ命令ヲ發シタル簡易裁判所又ハ其ノ簡易裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

前項ノ規定ニ依リテ地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ裁判所書記ハ遲滯ナク訴訟記錄ヲ地方裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

第四百四十三條　假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議却下ノ決定確定シタルトキハ支拂命令ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百四十四條乃至第四百九十六條　（削除）

第六編　强制執行

第一章　總則

第四百九十七條　强制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

第四百九十七條ノ二　判決カ其判決ニ表示シタル當事者以外ノ者ニ對シ效力ヲ有ス可キトキハ其者ニ對シ又ハ其者ノ爲メニモ之ヲ執行スルコトヲ得但第六十四條ノ規定ニ依ル參加人ニ付テハ此限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ執行力アル正本ノ付與ニ付テハ第五百十九條乃至第五百二十一條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十八條　判決ハ違法ナル異議ノ申立又ハ違法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

判決ノ確定ハ異議若クハ上訴（第四百九條ノ二ノ上告ヲ除ク）ヲ其期間內ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遲延ス

第四百九十九條　原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記錄ニ基キ之ヲ付與ス

訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間內ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル旨證明書ヲ以テ足ル

第五百條　第四百九條ノ二ノ上告ノ提起アルトキ又ハ再審

ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ一時停止スヘキコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル强制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テシメスシテ爲ス强制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ

債ヲコト能ハサル相當ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許ス

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立フルコトヲ得ス

第五百一條乃至第五百十一條（削除）

第五百十二條　假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ上訴ヲ提起シタルトキ又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條　本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立フル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

第百十二條、第百十三條、第百十五條及ヒ第百十六條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル保證ニ付キ之ヲ準用ス

第五百十四條　外國裁判所ノ判決ニ因レル强制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其進捗ナルコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ他人條ノ規定ニ從ヒテ管轄ニ關スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第五百十五條　執行判決ハ裁判ノ言渡ヲセスシテ之ヲ爲ス可シ

執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

第一　外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二　外國判決カ第二百條ノ條件ヲ具備セサルトキ

第五百十六條　强制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

執行力アル正本ハ第一審裁判所ヲ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條　執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ强制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條　執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限リ之ヲ付與ス

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立フルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限リ執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條　執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

此承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條　執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ謄本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條　執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄內ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域內ニ及フ

第五百二十六條　債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ强制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ該區ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ强制執行ヲ爲スヲ妨ケス

第五百二十七條　債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第五百二十八條　强制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得

判決ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ債權者ノ設明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行カ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ强制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條　請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ係ルトキハ其日時ノ終了後ニ限リ强制執行ヲ始ムルコトヲ得

若シ執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツヘキコトニ係ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限リ其ノ執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條　削除

第五百三十一條　强制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執行吏之ヲ實施ス

債權者ハ强制執行ヲ委任スル爲ニ地方裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

地方裁判所書記ノ委任シタル執行吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條　執行吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ利害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

第五百三十三條　債權者執行力アル正本ヲ交付シテ强制執行ヲ委任シタルトキハ執行吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキ債權ノ支拂其他ノ終付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作リ之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ履行シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

第五百三十四條　執行吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及第三者ニ對シ强制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

執行吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條　執行吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ履シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又ハ其義務ノ一分ヲ履シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

第五百三十六條　執行吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ營業ヲ捜索シ又ハ開鎖シタル戶扉及ヒ營業ヲ開カシムル權利ヲ有ス

抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執行吏ハ成力ヲ用ヰ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第五百三十七條　執行吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成年シタル其同居ノ親族　若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市町村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條　强制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執行吏ノ記錄ノ閲覽ヲ許シ及ヒ記錄中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條　夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行吏ハ裁判所ノ許可アルトキニ限リ執行行爲ヲ爲スコトヲ得

右許可ノ命令ハ强制執行ノ際之ヲ示ス可シ

第五百四十條　執行吏ハ各執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可シ

此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　調書ヲ作リタル場所、年月日

第二　執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル亦情ノ略記

第三　執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四　右各人ノ署名捺印

第五　調書ヲ其各人ニ讀聞セシメ又ハ閲覽セシメタル後署名捺印ヲ爲シタルコトノ聞示

第六　執達吏ノ署名捺印

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

第五百四十一條　執行行爲ニ關スル催告其他ノ通知ハ執行吏ヨリ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

書ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第百六十七條、第百六十八條、第百七十一條及ヒ第百七十二條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

若シ强制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄內ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

第五百四十二條　執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條　此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行爲ノ處分又ハ其行爲ノ共力ハ執行裁判所トシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス

法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル地方裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

民事訴訟法　强制執行　總則

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條　强制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執行吏ノ進ヲ停ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

執行吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行爲ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手數料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

第五百四十五條　判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遲クトモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シタルトキニ限リ之ヲ許ス

債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條　前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認メラレタル亦實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ爭フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

第五百四十七條　强制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且本案上ノ點ニ付キ疑明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ强制執行ヲ停止スヘキコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ强制執行ヲ續行スヘキコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消スヘキヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ變更セラルヘキ期間ヲ定ムヘシ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ强制執行ヲ續行ス

第五百四十八條　受訴裁判所ハ其職ノ所ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ認可シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

判決中前項ニ掲クル事項ニ關リ債權ヲ以テ假差押ソ宣言ヲ爲スヘシ

仮差押ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百四十九條　第三者カ强制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其强制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張スヘシ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス

强制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百五十條　强制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一　執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ强制執行ヲ許ストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二　執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三　執行ヲ免カルル爲メ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第四　執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ執行猶予ヲ宣言シタル旨ヲ記載シタル證書

第五百五十一條　前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セサルトキニ限リ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

第五百五十二條　强制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ强制執行ハ遺産ニ對シ之ヲ續行ス可シ

債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺産又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十三條　削除

第五百五十四條　强制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限リ債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ强制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

强制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

第五百五十五條　執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條　削除

第五百五十七條　外國ニ於テ强制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ其外國官廳カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

外國駐在ノ本邦領事ニ依リ强制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

第五百五十八條　强制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十九條　强制執行ハ左ノ條件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第一　抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

第二　假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令

第三　公證人カ其權限內ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ强制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第五百六十條　前條ニ掲ケタル債務名義及ヒ訴訟上ノ和解並ニ請求ノ抛棄又ハ認諾ニ因レル强制執行ニハ第五百十六條乃至第五百二十九條、第五百三十一條乃至第五百五十二條、第五百五十四條、第五百五十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條　假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ異議アル場合ニ限リ執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

請求ニ關スル異議ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限リ之ヲ許ス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承認ヲ爭フ訴ハ債權者ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ヲ發シタル簡易裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ簡易裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

第五百六十一條ノ二　過料ノ裁判及ヒ第三百八十四條第一項ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百六十二條　公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文付與ニ付テノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル地方裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス

執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ廢證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判所管轄ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

第五百六十三條　本編ニ定メタル裁判所ハ專屬ナリトス

第二章　金錢ノ債權ニ付テノ强制執行

第一節　動産ニ對スル强制執行

第一款　通則

第五百六十四條　動産ニ對スル强制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス

差押ハ執行力アル正本ニ揭ケタル請求ヲ債權者ニ弁濟スル爲メ及ヒ强制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノノ外ニ及ホスコトヲ得ス

差押ヲ可キ物ヲ換價スルモ强制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ强制執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十五條　第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ宣告ニ付キ優先ノ弁濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラルルコト無シ

此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事實カ法律上理由アリト見ニ足ル事實上ノ點ニ付キ疑問アリタルトキハ裁判所ハ當事者ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款　有體動産ニ對スル强制執行

第五百六十六條　債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ景況アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ著大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス

執行吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條　前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條　果實ハ未タ土地ヨリ離レサル間ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一个月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

穀ハ其莖分カ離ヲ成熟スル爲メ揚リ穀ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五百六十九條　差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ産出物ニモ當然及フモノトス

第五百七十條　左ニ揭クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　衣服、寢具、家具及ヒ廚具但此物カ債務者及ヒ其同居ノ親族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル

第二　債務者及ヒ其同居ノ親族ニ必要ナル三个月間ノ食料及ヒ薪炭

第三　技術者、職工、勞役者及ヒ藝芸ニ在テハ其業務上缺ク可カラサル物

第四　農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物

第五　官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六　文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七　郵便ニ在テハ郵票ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ動産

第八　動産及ヒ名譽ノ證據

第九　實印其他職業ニ必要ナル印

第十　神像、佛像其他宗教ノ用ニ供スル物

第十一　系譜

第十二　債務者又ハ其同居ノ親族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其同居ノ親族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

第十三　債務者及ヒ其同居ノ親族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

前項第二號ノ場合ニ於テ食料又ハ薪炭ニ各數種ノモノアルトキハ執達吏ハ債務者ノ利益ヲ考慮シテ差押ヲ爲ササル範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ執行吏ハ一應差押ヲ爲シタル上執行裁判所ニ差押フ可キ物ノ指定ヲ求ムルコトヲ得此指定ニ對シテハ當事者ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

債務者ノ承諾アルトキハ第一項第三號乃至第八號ニ揭ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

第五百七十條ノ二　差押ニ因リ債務者カ其生活上回復スルコト能ハサル窮迫ノ狀態ニ陷ルノ恐アル場合ニ於テ債務者カ誠實ニシテ債務履行ノ意思アリ且債權者ノ經濟ニ甚シキ影響ヲ及ホササルモノト認ムル可キ顯著ナル事由アルトキハ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ前條ノ規定ニ依ルノ外必要ナル限度ニ於テ差押フルコトヲ得サル財産ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ裁判ヲ爲シタル後ニ於テ理由消滅シ又ハ事情變更シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ前項ノ裁判ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第五百二十二條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五百七十一條　差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス可シ若シ此カ爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ニ對シ之ヲ償納セシム可シ

第五百七十二條　執行吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條　競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノ有ルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條　差押金錢ハ之ヲ債權者ニ引渡ス可シ

執達吏カ金錢ヲ取立テタルトキハ債務者ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十五條　差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ

七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條　競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條　最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス

競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メタルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競賣ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條　競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條　執行吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ニ對シ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ併託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條　金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競賣ヲ爲ス者ナキトキハ執行吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第五百八十一條　執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條　有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執行吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條　無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通ヲ止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此カ爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リテ爲ス權ヲ執行吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條　土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執行吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

差押ヘタル竹木ノ競賣ハ全ク伐ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十五條　差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執行吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十五條ノ二　執行裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ前條ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

右裁判所ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百八十六條　執行吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス

執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ差押調書ノ閲覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ差押調書ヲ交付シ且競テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ法律上移轉ス

價差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條　前條ニ揭ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

競賣ナル期間經過スルモ執行吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間內ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條　民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條　前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住所ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條　第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ差押調書ノ閲覽ヲ求メタルトキハ之ヲ交付シ且其差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ差押調書ヲ交付シ且競テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ法律上移轉ス

價差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條　前條ニ揭ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條　競賣ナル期間經過スルモ執行吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間內ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條　民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條　前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住所ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條　第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

執行吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ差押調書ノ閲覽ヲ求メタルトキハ之ヲ交付シ且其差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ差押調書ヲ交付シ且競テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作リ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執行吏ニ法律上移轉ス

價差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條　前條ニ揭ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條　競賣ナル期間經過スルモ執行吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間內ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アランコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條　民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條　前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住所ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條　第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ

モノトス但物ノ引渡ヲ目的トスル債權及ヒ物上ノ擔保權ヲ有スル債權ハ其物ノ所在地ニ在ルモノトス

第五百九十六條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押ヲ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ明示ス可シ

右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條　差押命令ハ第三債務者及ヒ債務者ノ害ヲ防ムスシテ之ヲ發ス

第五百九十八條　金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分除ニ其取立ヲ爲ス可カラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ債權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ

差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノトス

第五百九十九條　雲霞アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ氏名等ヲ表セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

第五百九十九條ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

裁判所ハ債務ヲ負フタル不動産ノ所有者（第三債務者）ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

第六百百　差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ヘ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ弁濟ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アランコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條　支拂ニ換ヘ弁濟額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限リハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ弁濟ヲ爲シタルモノト看做ス

第六百二條　取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分除ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得

右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ

第六百三條　手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執行吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第六百四條　俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス

第六百五條　職務上收入ノ差押ハ債務者ノ親族等生活ニ必要ナルモノニ限ル

第六百六條　債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ强制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

第六百七條　第百九十六條第二項ニ從ヒテ債務者ニ擔保ヲ供セシメテ執行ヲ免カルルコトヲ許ス可キトキハ差押ヲヘタル金錢債權ニ付テハ取立ノ命令ノミヲ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミヲ有ス

第六百八條　債權者取立ヲ爲シタルトキハ其間ヲ執行裁判所ニ屆出ツ可シ

第六百九條　差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメンコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

條一　債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度

第二　債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其ノ種類

第三　債權カ既ニ他ノ債權者ヨリ差押ヘラレタルコトノ有無及ヒ其ノ請求ノ種類

右ノ陳述ヲ求ムル債權者ハ之ヲ證據書ニ記載ス可シ第三債務者陳述ヲ怠リタルトキハ此ニ因リテ生スル損害ニ付キ其責ニ任ス

第六百十條　債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴狀ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條　債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條　債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル債利ヲ抛棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ

此抛棄ハ裁判所ニ屆書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其謄本ハ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條　差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命スルコトヲ得

債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ共申立ヲ許ス決定前ニ之ヲ書面ス可シ

第六百十四條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル强制執行ハ以下數條ノ規定ヲ對的シテ第五百九十八條乃至第六百十二條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條　有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執行吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適用ス

第六百十六條　不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不動産ヲ不動産所在地ノ地方裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ

引渡シタル不動産ニ付テノ强制執行ハ不動産ニ對スル强制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條　有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條　左ニ掲クル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一　法律上ノ差料

第二　債務者カ義捐金設所ヨリ又ハ第三者ノ慈惠ニ因リ受クル債權ノ收入但債務者及ヒ其同居ノ親族ノ生活ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三及ヒ第四　削除

第五　官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育慈教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六　職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲ニ受クル報酬

第一號、第五號及第六號ニ掲ケル收入ニ付テハ

一个年間ニ受ク可キ總額ノ四分ノ三ヲ超過スル部分ニ限リ之ヲ差押フルコトヲ得但シ差押ニ因リ債務者カ其生活上窮迫ノ狀態ニ陷ルノ恐ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ其二分ノ一ニ達スルマテ之ヲ差押フルコトヲ得

第六百十八條ノ二　第五百七十條ノ二ノ規定ハ前條第二項本文ノ規定ニ依リ差押ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六百十九條　數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ債權ノ差押ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條　執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其旨ヲ執行裁判所ニ屆出ツルマテ又ハ此行爽カ賣得金ヲ領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ準用ス

支拂ニ供ヘテノ執付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス

右配當要求ハ書面ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

第六百二十一條　金錢ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ

第三債務者ハ配當ニ異カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務額ヲ供託スル義務アリ

第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

第六百二十二條　請求カ不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ地方裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル命令ヲ送ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條　第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セサルトキハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ原告ニ加ハル權利アリ

訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ口頭辯論ノ第一期日マテニ申立ツルコトヲ得

右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害ヲ及ホス效力アリ

第六百二十四條　差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ラ取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條　不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル强制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁

スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分除ニ其權利ノ管理者ヲ命スルコトヲ得

第四款　配當手續

第六百二十六條　配當手續ハ動産ニ對スル强制執行ニ際シ動産期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十箇月ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條　裁判所ハ本情屆書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

第六百二十八條　前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ屆書ノ旨趣及ヒ其證據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條　裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閲覽セシムル爲メ遲クトモ期日ノ三日前ニ裁判所ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條　期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ

停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ

第百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未タ確定セサル債權其他異議アル異議ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

第六百三十一條　異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ

異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條　期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條　期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルヿヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラス配當ノ實施ヲ命ス可シ

第六百三十四條　異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキハ雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルコト無シ

第六百三十五條　異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス

第六百三十六條　異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ條

部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フヤヲ定ムルコトヲ要セサルトキハ判決ニ於テ斷ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命スヘシ

第六百三十七條　債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭シテ其債權ニ付キ異議ヲ申立テタル債權者ハ其異議ノ限度ニ於テ配當ヲ受クヘキ權利ヲ有ス

第六百三十八條　第六百三十六條ノ判決ノ確定シタルトキハ又ハ前條ノ規定ニ從ヒ異議ヲ取下ケタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ配當表ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手續ヲ命ス

第六百三十九條　裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施スヘシ

債權全部ノ配當ヲ受クヘキ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘシ

債權一分ノミノ配當ヲ受クヘキ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債權者ヨリ全額ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘシ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託スヘシ

右ノ手續ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ記載シテ之ヲ明確ニスヘシ

第二節　不動産ニ對スル强制執行

第一款　通則

第六百四十條　不動産ニ對スル强制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

第一　强制競賣

第二　强制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

强制管理ハ假差押ノ執行ノ爲ニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條　不動産ニ對スル强制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ地方裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇ノ地方裁判所ノ管轄區内ニ跨ルトキハ作成方裁判所管轄權ヲ有ス此場合ニ於テ裁判所各異アリト認ムルトキハ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所ニ移送スルコトヲ得

强制執行ハ申立ニ因リテ裁判所之ヲ爲ス

第二款　强制競賣

第六百四十二條　强制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二　不動産ノ表示

第三　競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

第六百四十三條　申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附スヘシ

第一　登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記官吏ノ證書

第二　登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證スヘキ證書

第三　地所ニ付テハ國郡市町村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル賃貸價格及ヒ其地所ニ付キ納ムヘキ一箇年ノ租稅其他ノ公課ヲ證スヘキ證書

第四　建物ニ付テハ國郡市町村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ムヘキ一箇年ノ公課ヲ證スヘキ一箇年ノ公課ヲ證スヘキ證書

第五　建物ニ付テハ其建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃及ヒ借賃ノ前拂又ハ數金ノ差入アルトキハ其額ヲ證スヘキ證書

第六　建物、建物ニ付キ賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃及ヒ借賃ノ前拂又ハ數金ノ差入アルトキハ其額ヲ證スヘキ證書

第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得

第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其事實ヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執行吏ヲシテ其取調ヲ爲サシムヘシ

强制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ其執行記錄ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條　競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言スヘシ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ債權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ强制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得

右申立ハ執行記錄ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ準セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條　配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ亦務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條　執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知スヘシ

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタル日ヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出ツヘシ

債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定スヘシ

第六百四十八條　左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一　差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二　債務者

第三　登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四　不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記錄ニ備フヘキ願出ヲ爲シタル者

第五　知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ裏書人

第六百四十九條　差押債權者ノ債權ニ先タツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲

第五　総テノ競買價額竝ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六　競売ノ終局ヲ告知シタル日時

第七　競買人ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八　最高價競買人及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人ノ氏名及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執行吏ハ受取證ヲ取リ之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條　執行吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條　最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ亦然所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第百七十條第二項及ヒ第百七十三條ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執行吏ニ口述シ其調書ヲ作フシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條　競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條　競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一　强制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二　最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト

第三　法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四　競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五　競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六　第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七　第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八　第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條　異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アル

トキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ競賣スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條　競賣ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條　競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執行吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條　競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再賣ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金、代金支拂期日ヨリ代金支拂マテノ利息及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且競買ノ保證ノ爲メ預ケタル金錢又ハ有價證券ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ス

前ノ競落人ハ再賣ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔ス

第六百八十九條　共有物持分ノ强制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ强制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス但他ノ共有者ニハ其强制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條　競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記所ニ囑託ス可シ

第六百九十一條　競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條　各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條　代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條　期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一　代金

スコトヲ得ス
不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス
留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス
質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百五十條　從利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其效力ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス
若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ債務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ
競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

第六百五十一條　裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際債權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記官吏ニ囑託ス可シ
登記官吏ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十二條　登記官吏ハ前條ニ揭ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ニリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲモ送付ス可シ

第六百五十三條　競賣ヲ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ訪ク可キ旨貢カ登記官吏ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後債權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

第六百五十四條　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ保管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ

第六百五十五條　裁判所ハ登記官吏及ヒ租稅其他ノ公課ヲ管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス

第六百五十六條　裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ
右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條　裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタルトキハ競權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條　競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一　不動産ノ表示
第二　租稅其他ノ公課
第三　賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃及ヒ借賃ノ前拂又ハ敷金ノ差入アルトキハ其額

第四　競買期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執行吏ノ氏名並ニ住所
第五　最低競賣價額
第六　競落期日ノ場所及ヒ日時
第七　執行記錄ヲ閲覽シ得ヘキ場所
第八　登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨
第九

第六百五十九條　競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ
此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條　競賣期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス
此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條　競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示シテ之ヲ爲ス
第一　裁判所ノ揭示板
第二　不動産所在地ノ市町村ノ揭示板
此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ揭載スコトヲ得

第六百六十二條　最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ揭ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條　裁判所必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ本款ニ揭ケタル賣却條件ヲ變更スルコトヲ得
右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得
第一項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ不動産ニ付キ必要ナル取調ヲ爲サシムルコトヲ得

第六百六十四條　競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執行吏ニ預クルトキニ非ザレハ其競買ヲ許サス

第六百六十五條　競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アルマテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

第六百六十六條　執行吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ
他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且即時ニ保證ノ返還ヲ求ムル權利アリ

第六百六十七條　競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
第一　不動産ノ表示
第二　差押債權者ノ表示
第三　執行記錄ヲ各人ノ閲覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト
第四　競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五　総テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

第六　競売ノ終局ヲ告知シタル日時

第七　競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ保證ヲ立テサルル爲メ其競買ヲ許ササルコト

第八　最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執行吏ハ受取證ヲ取リ之ヲ調書ニ添附ス可シ

第六百六十八條　執行吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

第六百六十九條　最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ亦然所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ若シ之ヲ忘リタルトキハ第百七十條第二項及ヒ第百七十三條ノ規定ヲ準用ス

住所ノ選定ハ執行吏ニ口頭シ其調書ヲ作ラシメテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十條　競買期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ告セサル限リハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競買價額ヲ相當ニ低減シ新競買期日ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競買期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條　裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ亦同シ

第六百七十二條　競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

第一　强制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト

第二　最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト

第三　法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四　競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五　競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方式ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六　第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七　第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト

第八　第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條　異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

第六百七十四條　裁判所ハ異議ノ申立ヲ至當トスルトキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一アル

トキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第二號ノ場合ニ於テハ競力若クハ資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限ル

第六百七十五條　裁判所ハ競賣ニ付シタル場合ニ於テ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條　競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡アルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメンコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執行吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條　競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ賣買ヲ命ス可シ

最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金、代金支拂期日ニ利息及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ承認ス可シ

再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ許サス且競買ノ保證ノ爲メ預ケタル金錢又ハ有價證券ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ス

前ノ競落人ハ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ニリ低キトキハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔ス

第六百八十九條　共有物持分ノ强制競賣ニ付テハ債權者ノ債權ノ爲メ債務者ノ持分ニ付キ强制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入スル他ノ共有者ニハ其强制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

最低競賣價額ハ共有物全部ノ評價額ニ基キ債務者ノ持分ニ付キ之ヲ定ム可シ

第六百九十條　競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入ノ抹消ヲ登記簿吏ニ囑託ス可シ

第六百九十一條　競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カル各債權者ヲ滿足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ其法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條　各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ

前項ノ規定ニ從ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百九十三條　代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條　期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ費許ナルヤヲ定ム可シ

左ノモノヲ賣却代金トス

第一　代金

第二　不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

第三　第六百八十八條第四項ノ場合ニ於テハ代金支拂期日ヨリ代金支拂マテノ利息

第四　第六百八十八條第五項ノ場合ニ於テハ前ノ競落人ヨリ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金額

代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

競買ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條　裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第六百九十六條　配當表ニハ賣却代金、各債權者ノ債權ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條　配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條　期日ニ出頭シタル債務者ハ各債權者ノ債權ル權利アリ

出頭シタル各債權者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ前項ノ同一ノ權利アリ

債權ノ擔保ヲ爲ササル抵當證券ノ所持人ノ債權又ハ其順位ニ對シ又ハ其債權ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツ

スヘキ訴ニ付テハ第六百九十七條ノ規定ニ依リ準用セラル第六百三十三條ノ期間ハ其所持人ノ知レタル日ヨリ之ノ起算ス

執行スルヲ得ヘキ債權ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條　競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ賣入代金ノ額ニ滿ツルヲ限トシ關係債權者ノ承諾ヲ得テ賣入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ノ引受クルコトヲ得若シ債權者競落人ナルトキハ其債權ノ配當額カ賣入代金ノ額ニ滿ツル限リハ賣入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債權ニ對シ相當ナル異議アルトキハ之ニ關スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條　配當表ノ實施シタル後裁判所ハ配當調書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記官吏ニ送付シテ左ノ書件ヲ囑託ス可シ

第一　競落人ノ所有權ノ登記

第二　競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

第三　第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

右登記及ヒ抹消ニ關スル總テノ費用ハ競落人之ヲ負擔ス可シ

第七百一條　數多ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條　裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得

賣入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條　入札ハ入札期日ニ於テ執行吏ニ之ヲ差出ス可シ

入札ニハ左ノ書件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一　入札人ノ氏名及ヒ住所

第二　不動産ノ表示

第三　入札價額

執行吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

二人以上同價額ノ入札アルトキハ執行吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條　最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ依ル保證ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

第三款　強制管理

強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

不動産カ債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ負擔ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ報告ハ不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者カ管理人ノ承諾ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

既ニ收穫シ若シクハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若シクハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ登錄スルニ因リ其效力ヲ生ス此登錄ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條　裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ其ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行開始ニ始マルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又ハ既ニ開始シタル強制管理ノ效力ヲ生ス

開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

價額評價ノ命令アリタルトキハ不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條　配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住所ヲモ不持所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條　執行裁判所ハ第二條ノ申立及ヒ要求アリタルトキハ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條　管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ配當ノ人ヲ指定スルコトヲ得

管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ債權ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益ヲ取

立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條　裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又證據トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタルヒ管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ職務施行ヲ監督ス可シ

裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ或拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條　第三者不動產ニ付キ强制管理ヲ許スコトヲ訪クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條　管理人ハ直チニ不動產ニ付キ爲ルル歌益ヨリ其不動產ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ拒絶シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辯濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ屆出ツ可シ

前項ノ屆出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人ヲシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

第七百十五條　管理人ハ毎年及ヒ其職務施行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ差出アリタルヨリ七日ノ期間內ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

右期間內ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承認シタルモノト看做ス

異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ棄却シタルトキハ裁判所ハ管理人ヲシテ卸任セシム可シ

第七百十六條　强制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

此取消ハ各債權者不動產ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

若シ管理費施行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ强制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記判事ニ强制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

第三節　船舶ニ對スル强制執行

第七百十七條　商船其他ノ海船ニ對スル强制執行ハ不動產ノ强制執行ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ點ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

漁舟其他船舶ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ搭載ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條　船舶ノ强制執行ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ地方裁判所ヲシテ執行裁判所トス

第七百十九條　船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ進發トスル場合ニ於テハ裁判所ハ職權ノ利害關係人ノ申立ニ因リ執行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條　强制執行ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ

第一　債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書

第二　船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

債權者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ管轄ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アランコトヲ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條　裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ發達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

若シ此處分ヲ執行スル爲メ債權者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條　船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債權者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ執行ヲ妨ケス

差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ當船長ハ其關係人タル資格ヲ免カル

第七百二十三條　船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄內ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其之ヲ取消ス可シ

第七百二十四條　發賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル事項ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲クル可シ

第七百二十五條　定款港ノ地方裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲タルトキハ執行裁判所ハ發賣期日ノ公告ヲ定款港ノ地方裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ掲示ス可キコトヲ囑託スヘシ

第七百二十六條　船舶ノ處分ニ關スル强制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定款港ノ地方裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條　債權者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ處分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ

差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ

差押ハ此命令ヲ債務者ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條　船舶處分ノ發賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條　外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三節　金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ强制執行

第七百三十條　債務者カ特定ノ動產又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執行吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債權者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條　債務者カ不動產又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執行吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシム可シ

此强制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタル

トキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ差押ヲ受ケタル債務者ニ引渡スヲ可シ若シ債務者不在ナルトキハ其代理人又ハ債務者ノ成長シタル同居ノ親族若シクハ雇人ニ之ヲ引渡スヲ可シ

債務者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執行吏ハ右ノ動産ヲ債務者ノ費用ニテ保管ニ付スヲ可シ

債務者カ其動産ノ受取ヲ拒ルトキハ執行吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル後其代金ヲ供託スヲ可シ

第七百三十二條　引渡スヲ可キ物カ第三者ノ手中ニ在スルトキハ債務者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金錢債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付スヲ可シ

第七百三十三條　民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス

債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ負擔メ債務者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アランコトヲ申立フルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス

第七百三十四條　債務ノ性質カ强制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間內ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第七百三十五條　前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊スヲ可シ

第七百三十六條　債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾スヲ可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲スヲ可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲スヲ可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

節目錄　假差押及ヒ假處分

第七百三十七條　假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ代フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ將來又ハ不確定ニ對スル强制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得

假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十八條　假差押ハ之ヲ爲サナレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ除ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得

第七百三十九條　假差押ノ命令ハ假ニ差押ヲ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

第七百四十條　假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二　假差押ノ理由ナル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ疏明スヲ可シ

申請ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

第七百四十一條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキハ假差押ニ因リ債務者ニ生スヘキ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル宣見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明タシタルトキト雖モ假差押ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得

保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載スヲ可シ

第七百四十二條　假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シタルトキハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十三條　假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲ニ債務者ヨリ供託スヲ可キ金額ヲ記載スヲ可シ

第七百四十四條　債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立フルコトヲ得

此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立フル理由ヲ開示スヲ可シ

異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條　異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當事者ヲ呼出スヲ可シ

裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全部若シクハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル宣見ヲ以テ定ムル保證ヲ立フヲ可キコトノ條件ヲ附シテ之ヲ言渡スコトヲ得

民事訴訟法　强制執行　假差押及ヒ假處分

第七百四十六條　本案ノ未タ係屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間內ニ訴ヲ起スヲ可キコトヲ債權者ニ命スヲ可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消スヲ可シ

第七百四十七條　債務者ハ假差押ノ理由ヲ消滅シ其他相當ノ理由ヲ陳述シ假差押ノ取消ヲ申立フルコトヲ得

假差押ノ申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲ス其他ノ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

假差押ノ申請ヲ却下シタルトキハ裁判所ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

第七百四十八條　假差押ノ執行ニ付テハ强制執行ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條　假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間內ニ訴ヲ起スヲ可キコトヲ債權者ニ命スヲ可シ

此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消スヲ可シ

第七百四十六條ノ規定ハ之ヲ準用スヲ可シ

第七百四十八條ノ規定ハ假差押ノ執行ニ之ヲ準用スヲ可シ

第七百四十九條ノ規定ハ假差押ノ命令ニ之ヲ準用スヲ可シ

第七百五十條　債務者ニ對スル假差押ノ執行ハ仮差押ト同一ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲ス

債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

債権ノ仮差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂フ為スコトヲ禁スル命令ノミヲ為スコトヲ得

仮差押ノ金錢ハ之ヲ供託スヘシ其他仮差押物ノ換價及ヒ仮差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ為サス然レトモ仮差押物ニ著シキ仮損ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相當ナル費用ヲ生スヘキトキハ執行裁判所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託スヘキ旨ヲ執行吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條　不動産ニ對スル仮差押ノ執行ハ仮差押ノ命令ヲ登記簿ニ記入スルニ因リテ之ヲ為ス

前項ノ執行ニ付テハ仮差押ノ命令ヲ發シタル裁判所ヲ以管轄執行裁判所トス

第七百五十二條　仮差押執行ノ為メ職權管理ヲ為ス場合ニ於テハ保全スヘキ債權ニ相當スル金錢ヲ取立テ之ヲ供託スヘシ

第七百五十三條　船舶ニ對スル仮差押ノ執行ハ仮差押ノ當時碇泊スル港ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ為ス裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ為メ必要ナル處分ヲ為ス

第七百五十四條　仮差押命令ニ於テ定メタル金錢ヲ供託シタルトキハ執行裁判所ハ執行シタル仮差押ヲ取消スヘシ

仮差押ノ執行ニ付キ特別ノ費用ヲ要シ且之カ為メ必要ナル金錢ヲ債權者カ豫納セサルトキモ亦執行裁判所ハ仮差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スコトヲ得

仮差押ノ取消ヲ許シタル裁判ハ即時抗告ヲ為スコトヲ得

第七百五十五條　仮差押ノ命令ニ對スル債務者ノ異議ニ因リ其命令ヲ取消ス場合ニ於テハ仮差押ノ執行ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償シ若クハ之ヲ供託スヘシ

第七百五十六條　仮處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ仮差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ異ノ定ヲ為スルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十六條ノ二　仮處分ヲ取消ス判決ハ財産權上ノ請求ニ關セサルモノニ付テモ仮執行ノ宣言ヲ為スコトヲ得

第七百五十七條　仮處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス

右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スコトヲ得

第七百五十八條　裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム

仮處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行為ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ為スコトヲ得

仮處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト為スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシムヘシ

第七百五十九條　特別ノ事情アルトキニ限リ保證ヲ立テシメテ仮處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條　仮處分ハ爭アル權利關係ニ付キ仮ノ地位ヲ定ムル為ニモ亦之ヲ為スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル强暴ヲ防ク為メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條　急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ハ仮處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ為メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ仮處分ヲ命スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後　地方裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル仮處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スコトヲ得

第七百六十二條　本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス

第七百六十三條　急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ為スコトヲ得

第七百六十四條　公示催告手續

第七百六十五條　請求又ハ權利ノ屆出ヲ為サシムル為メノ裁判上ノ公示催告ハ其屆出ヲ為サルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ為スコトヲ得

公示催告手續ハ簡易裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十六條　公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ為ス可ク其公示催告ニハ序ニ左ノ事件ヲ掲ク可シ

第一　申立人ノ表示

第二　請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ屆出ツ可キコトノ催告

第三　屆出ヲ為ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四　公示催告期日ノ指定

第七百六十六條　公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ為ス

為分ヲ命スルコトヲ得

此期間ヲ徒過シタル後　地方裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル仮處分ヲ取消ス可シ

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スコトヲ得

第七百六十二條　本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス

第七百六十三條　急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限リ裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ為スコトヲ得

第七百六十四條　公示催告手續

第七百六十五條　請求又ハ權利ノ屆出ヲ為サシムル為メノ裁判上ノ公示催告ハ其屆出ヲ為サルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限リ之ヲ為スコトヲ得

公示催告手續ハ簡易裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十六條　公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得

此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ為スコトヲ得

申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ為ス可ク其公示催告ニハ序ニ左ノ事件ヲ掲ク可シ

第一　申立人ノ表示

第二　請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ屆出ツ可キコトノ催告

第三　屆出ヲ為ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四　公示催告期日ノ指定

第七百六十六條　公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ為ス

裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス可キコトヲ命スルコトヲ得

第七百六十七條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條　公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ屆出ヲ為ストキハ遲延ナル時間ニ之ヲ為シタルモノト看做ス

第七百六十九條　除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ為ス

右判決前ニ詳細ナル探知ヲ為ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得

除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ為スコトヲ得

第七百七十條　申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ爭フコトノ屆出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ屆出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ屆出ヲタル權利ヲ留保ス可シ

第七百七十一條　申立人カ公示催告期日ニ出頭セサルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限リ之ヲ為スコトヲ許ス

第七百七十二條　公示催告手續ヲ完結スル為メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ為スコトヲ要セス

第七百七十三條　裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ為スコトヲ得

第七百七十四條　除權判決ニ對シテハ上訴ヲ為スコトヲ得

除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立

フルコトヲ得

第一　法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二　公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三　公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ

第四　判決ヲ爲ス裁判官カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五　請求又ハ權利ノ屬出アリタルニ拘ハラス判決ニ於テ其屬出ヲ法律ニ從ヒ顧ミサルトキ

第六　第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條　不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラサリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五个年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條　裁判所ハ裁判ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條　盜取セラレ又ハ紛失若クハ誤失シタル手形其他商法ニ無效ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無效宣言ノ爲ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限リハ之ヲ適用ス

第七百七十八條　無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且時式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條　公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セサルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其他ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條　申立人ハ申立ノ原據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一　證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二　證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ疏明スルコト

第七百八十一條　公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ノ裁判所ニ屬出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可シ又失權トシテ證書ノ無效宣言ヲ生ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條　公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示ス可シ

第七百八十三條　公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條　除權判決ニ於テハ證書ヲ無效ナリト宣言ス可シ

除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無效宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條　除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八節　仲裁手續

第七百八十六條　一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係爭物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

第七百八十七條　將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條　仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條　當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

右期間ヲ徒過シタルトキハ當該裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條　當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ異議セフ

第七百九十一條　仲裁契約ヲ以テ選定シタル一名ノ仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其ノ職務ノ引受ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ當該裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條　當事者ハ判事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

此他仲裁契約ヲ以テ選定シタル一名ノ仲裁人カ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

無能力者、破産者、喪者及ヒ公職ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條　仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ヲ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一　契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其責務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二　仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條　仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條　仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ

鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權チシ

第七百九十六條　仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

證人又ハ鑑定人ニ供述ヲ命シタル裁判所ハ證據ヲ述フルコト又ハ鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタル場合ニ於テ必要ナル裁判ヲモ亦爲ス權アリ

第七百九十七條　仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許ス可カラサルコトヲ主張スルトキ除ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁契約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權チキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ續行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條　數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲ス可キトキハ過半數ヲ以テ其判斷ヲ爲ス可シ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條　仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ニ之ヲ置ク可シ

第八百條　仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八百一條　仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一　仲裁手續ヲ許ス可カラサリシトキ

第二　仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲ス可キ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三　當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四　仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ

第五　仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六　第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條　仲裁判斷ニ因リ爲ス强制執行ハ執行判決ヲ以テ其許ス可キコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條　執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルトキニ限ル

第八百四條　仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間內ニ之ヲ起ス可シ

右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確官前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五个年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡ス可シ

第八百五條　仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許ス可カラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル簡易裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有ス可キ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

附　則（大正十五年法律第六十一號民事訴訟法中改正法律附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和四年勅令第百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

附　則（昭和六年法律第十七號附則）

本法施行ノ期日ノ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第六百四十三條ノ改正規定ハ地租法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和六年勅令第百八十九號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行）

附　則（昭和十年法律第十五號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十年勅令第八十九號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ開始シタル强制執行ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ第五百七十條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ開始シタル强制執行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

附　則（昭和十三年法律第十九號附則）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十三年勅令第三百七十三號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ開始シタル强制執行ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附　則

第一條　この法律は、昭和二十四年一月　一日から、これを施行する。

第二條　この附則で、新法とは、この法律による改正後の民事訴訟法をいい、旧法とは、從前の民事訴訟法をいう。

第三條　新法は、特別の定のある場合を除いては新法施行前に生じた事項にもこれを適用する。但し、旧法及び昭和二十二年法律第七十五号によつて生じた効力を妨げない。

第四條　新法第七十九條第一項但書及び第二項の規定は、地方裁判所が裁判所法施行令第三條第一項の規定に基いて從前の例によれば区裁判所の権限に属する事件を取り扱う場合にこれを準用する。

第五條　新法施行前に旧法によつて過料に処すべき行爲をした者で新法施行の際まだその裁判を

受けていないものは、旧法により処罰する。

第六條　東京高等裁判所が裁判所法施行令第四條の規定により裁判権を有する事件についてした終局判決については、新法第三百九十三條の規定は、これを適用しない。

前項の終局判決については、新法第四百九條ノ二及び第四百九條ノ三の規定を準用する。

第七條　昭和二十年法律第四十六号の一部を次のように改正する。

附則第二項中「、第五條」を削る。

第八條　昭和二十二年法律第七十五号の一部を次のように改正する。

第八條を削る。

附則第二項中「昭和二十三年七月十五日」を「昭和二十四年一月一日」に改める。

昭和二十三年十一月五日　印刷
昭和二十三年十一月十日　發行

双美書房編

發行者　石川信之
京都市下京區東洞院松原上ル

定價68圓

印刷者　京都單式印刷所
代表者　森下笑吉

發行所　双美書房
京都市右京區花園大藪町二五
電話西陣五二七八番
（會員番號A219351）

日本出版配給株式會社　配給